

令和3年度 事業報告書

社会福祉法人 北摂杉の子会

I.事業報告

1. 法人本部

令和3年度社会福祉法人北摂杉の子会年度方針

1. リスク管理体制の強化を図る

(1) 新型コロナウイルス感染防止の組織的な取り組みを徹底する

【成果】

- ・年度当初、感染拡大を想定し、法人内の応援体制に関するアンケートの実施や、応援手当の整備を行った。
- ・Chatworkを活用した部長間の連絡体制を整備し、法人内での感染状況についての情報共有を行った。
- ・実際に、生活支援を行っている萩の杜やグループホームではクラスターが発生し、特に萩の杜では、危機的な状況に陥ったが、法人全体で情報共有を行い、応援体制の実施や、物資の共有など、組織的な対応を行った。

(2) 利用者の安全・安心な暮らしの提供を推進するための事故・リスク管理の組織的取り組みを強化する

【成果】

法人全体での書式の標準化を検討することができなかった。新型コロナウイルスのクラスター発生による事業運営のリスクに直面したこともあり、事業所、法人の取り組みを振り返り、BCP（業務継続計画）を策定して、今後の感染症、大規模災害へのリスクの備えを行なっていく。

2. 人材確保と人材（財）育成、労働環境改善の取り組みの推進

(1) コロナ禍の中、感染防止対策を講じて、より効果的な採用活動を進める

【成果】

感染症対策を実行しながら、学校訪問や学生面談を実施し、合同説明会を開催し、34名の応募者を集めて、内定を21名出すことができた。ただ辞退者も約半数占めて、学生の就職状況の流動性が高まっていると分析される。今後もSNSを効果的に使いながらも、地道なリクルート活動を継続することが必要となると考えられる。

(2) 非常勤職員の採用について注力するとともに、障害者支援施設、グループホームについては収支状況を勘案しつつ、常勤職員比率を高めるなどの対策の検討を行う

【成果】

非常勤職員の採用については、以前厳しい状況が続くこととなった。複数の求人サイトを使いながら、chatworkで情報共有して、有望な求人情報を適所に採用できる体制を作ることができた。常勤職員比率については、非常勤職員と同じく、常勤職員の採用状況も余裕がなく今後の課題として残された。

(3) 新採職員に対するメンター制度の活用を行う

【成果】

これまでいくつかの事業所で独自におこなっていたメンター制度を、法人全体の取り組みとして運用を開始した。正職員を対象者として、メンターは概ね入職5年目までの職員、メンティーはその年に採用となった新人職員とした。メンター制度導入にあたっては5月に対象者向けのキックオフ研修をおこない、制度導入の目的やメンタリングの進め方などを確認してから、実際の運用を開始した。また10月にはメンター交流会を開催し、日頃メンター役を担う職員間での意見交換をおこなった。メンターにとっては人材育成に直接携わる機会であり、メンティーにとっても心理的サポートが得られる機会であり、双方へのアンケート調査でも概ね好評な意見をいただいている。今後は対象者を拡大しながらよりコミュニケーションと人材交流が活性化されるよう更なる活用を進めていきたい。

(4) 職員が生き生きと輝きながら成長できる法人独自のキャリアパスの策定を目指す

【成果】

事業の拡大に伴い、法人で働く職員個々の将来への目標やワークライフバランスも多岐にわたる中、様々な選択肢や方向性のある法人独自の仕組み作りが必要ということでキャリアパスプロジェクトを立ち上げた。プロジェクト開始にあたってメンバーを公募したところ9名の職員から応募があり、ファシリテーターとして「NPO 法人 場とつながり home's vi」にもご協力いただき、6回のプロジェクト会議と会議前後の事務局ミーティングを重ねながら「杉の子会らしいキャリアパス」を念頭に、法人職員にインタビューをおこなうなどして議論を進め、法人研修等で進捗報告をおこなった。今期プロジェクトでは入職～主任級までのキャリアパス案を完成させたが、更なる精査が必要であること、それぞれの事業種別の役割期待、それに合わせた階層別研修の設定、総合職／専門職の位置付けなど、来期のプロジェクトへ引き継ぐことになっている。

3. 利用者支援、業務・運営、法人内コミュニケーションの更なる質の向上

(1) 利用者支援の更なる質の向上

① 高齢化・重度化対策の推進を行う

【成果】

萩の杜 高齢・重度化対策プロジェクト”の期間を延長して議論を進める。利用者の高齢化対策として住環境の“小規模・分散化”を目標に、生活棟本館の改修案(浴室と多目的トイレの全ユニットへの整備)と共同生活援助事業を利用した高齢化対応の生活棟別館の建設の基本方針をまとめた。高齢化対応のグループホーム新設の検討を進める。

作業療法士 ふれいす Be の芝崎と小林が萩の杜に訪問し、高齢化してきている利用者の運動プログラム等について相談を受けている。現場の萩の杜職員が実施している。また、ふれいす Be 利用者とジョブサイトひむろ利用者に対して、芝崎 OT とジョブサイトひむろの近藤 OT が定期的に運動プログラムとしてポールウォーキングを実施している。

② 青年期の自閉スペクトラム症のある人たちに対する支援プログラムの検討を行う

【成果】

今年度、過去に an・PASSO に通っておられた小学校 4 年生～高校 3 年生までの方を対象にした年間 4 回（7 月～11 月）の「PASSO くらぶ」として、ゲームやクッキングなどのイベントを企画した。8 月に緊急事態宣言が発令されたことにより、7 月のみの実施となった。

③ 権利擁護・虐待防止の推進を行う

【成果】

- ・令和 3 年度からの法改正に対応し「身体拘束の指針」の整備を行った。令和 4 年度から指針の運用を開始する予定。
- ・令和 3 年度も法人全体と事業所ごとに「権利擁護虐待防止計画」を策定し、委員会にて進捗管理を行った。
- ・法人内で市の虐待防止センターに通報する案件があり、虐待認定は受けなかったものの臨時の委員会を開催し、改めて「支援の在り方」についても振り返りを行った。
- ・当法人では令和 3 年度改正に先行し、虐待防止体制を整備していたこともあり、他法人等から当法人の取り組みについての研修依頼があった。研修を実施することで振り返りになり、地域貢献にもつながった。

④ 日中活動支援について、法人としてのミッション・ビジョン・支援プログラムの検討・開発を行う

【成果】

コロナ禍ということもあり、生活介護、就労継続支援 B 型事業、いずれも感染症対策を講じながら従来の事業を継続することを優先したため、新たな取り組みには至らなかった。ただ、B 型事業については、定期的に各事業所の主任級が集まり、それぞれの事業所の情報共有や、ご利用者のニーズに沿った活動について検討してきた。また、農福連携についても検討を始めた。

⑤ 就労移行支援、企業就労者に対する定着・生活支援についての検討を行う

【成果】

コロナ禍が続く中、就職者が前年比 50%となった令和 2 年度とは違い、令和 3 年度は 16 名の就職実績となった。累計の就職実績は 166 名となり、現在も就業中の方は 130 名を超える数となり、定着・生活支援に対する相談ニーズは高まっている。令和 3 年度は所内にて数回に渡る定着支援のあり方を検討するミーティングを開催した。相談ニーズが多様なこともあって結論を見出すことはできなかったが、次年度においても検討ミーティングを継続し、一旦の結論を出して定着支援を進めていけるよう取り組みたい。

⑥ 意思決定支援：PECS を中心とした「表出コミュニケーション支援」及び意思決定力を形成するための自立生活支援プログラムの検討を行う

【成果】

昨年に引き続き PECS 担当者を設置し担当者が中心となって門先生による SV のコーディネートや事前の情報整理（プレミーティング）を実施している。

表出コミュニケーションの実践については、SV を受けた 9 事業所を中心に取り組み、うち 2 事例については法人研修で報告した。

(2) 業務・運営、法人内コミュニケーションの質の向上

① ICT 活用の推進を行う

【成果】

(i) 職員向けに、ICT 研修会を実施した

(ii) 相談支援事業所（あんだんて・wish）に支援ソフトを導入した

(iii) 管理職が円滑に情報共有するためのツールとして、チャットツール

「チャットワーク」、グループウェア「Google Workspace」を導入した

② 法人内コミュニケーション（タウンホールミーティングなど）の活性化を行う

【成果】

前年度より継続して今年度はタウンホールミーティングを 12 事業所に実施し、理事長と副理事長が現場職員とコミュニケーションをとる機会を増やして、相互理解を深めることができた。次年度は残り 10 事業所にて開催予定。

その他、ICT ツール「Chatwork」や「Google ドライブ」を活用し、管理職間のコミュニケーションの活性化をはかった。

4. ニーズ、障害福祉制度・事業等の環境の変化に対応した支援サービス・事業の見直しと収支の改善

(1) 中高生支援の在り方についての再検討を行う

【成果】

今年度は、過去に an・PASSO に通っておられた小学校 4 年生～高校 3 年生までの方を対象にした年間 4 回（7 月～11 月）の「PASSO くらぶ」を企画・実施したが、8 月に緊急事態宣言が発令されたことにより、電車等を利用して来所されること自体に不安のある方もおられたことから、7 月のみの実施となった。

(2) 「az」「an」の大阪市との事業委託契約更新についての検討を行う

【成果】

大阪市専門療育事業について、an は継続、az はプロポーザルに応募をしないこととした。改めて発達障害者支援法の改正内容について踏まえ、1 年間の専門療育終了後、身近な地域での資源の活用について考えると、その地域で他事業を展開する法人がこの事業を実施するほうがよいとの結論に至った。なお、an については次期（3 年間）のプロポーザルに応募、事業契約に至っている。

(3) 療育拠点事業から発達支援拠点への機能変更に伴う今後の在り方の検討

【成果】

令和3年度から府事業のコンサルテーションの対象に“教育連携”も加わったことから、まずは各圏域の教育の現状を把握するため、圏域内の教育委員会へ事業の説明会を実施し、その後各教育委員会への訪問を行った。市町村によっては、令和4年度から研修事業や学校へのコンサルテーションの実施に向けた協議が進んでおり、“家庭”“福祉”“教育”との連携（トライアングルプロジェクト）を進めていくことが可能となった。

(4) 短期入所・日中一時支援事業について、運営の在り方を検討する

【成果】

毎月1回ぶれすとふれいす Be の担当で合同会議を開き、運営の在り方を検討した。高槻市内の全ての日中一時事業所の運営が厳しくなっていることから、高槻市内の事業所連絡会と連携を取り、高槻市と意見交換会を行なう。2022年度より報酬単価が4時間以内のみであるが、2,040円から3,000円に上がった

(5) LaLa-chocolat の収支改善と売り上げアップに引き続き取り組む。

【成果】

収支改善計画に沿って店舗では月次売上目標を立て、会員向けのキャンペーンの実施、夏季新商品の販売、ネットショップの改善など、売り上げアップを目指した取り組みを実施したが、来客数が伸び悩み、昨年度比100%程度の年間売上であった。またステップでの新規作業の開拓については、内職作業を2件スタートすることができたものの、既存の委託先からの業務が滞ったり、新型コロナウイルスの影響で施設外作業の業務がストップするなどし、昨年度比約100%の収入にとどまった。引き続き、収支改善についての取り組みを継続していく必要がある。新規利用者については、年度内に3名、令和4年4月から1名の受け入れも進めることができた。

5. 第5次5か年中期計画の策定

【成果】

第5次中期5ヶ年計画策定にあたり、第5次中期計画ビジョン策定プロジェクトを発足させた。プロジェクトでは、ファシリテーターとしてパブリック・ハーツ（株）の水谷香織氏をお招きし、5年後の在りたい未来像＝ビジョンについて議論を重ねた。併せて法人職員へのヒヤリングやアンケート調査も実施し、多くの職員の想いも汲みながら下記の通り新たなビジョンとミッションを策定した。また、法人内でのビジョンの浸透を図ることに加え、法人が実現したい未来をより広く周知する為にビジョンの動画を制作した。

【新ミッション】

- ◆社会と人の変革 新しい価値の創造
- ◆社会・世界に必要とされる人材の育成

【新ビジョン】

- ◆杉の子マインドの浸透 ～当たり前前支援を当たり前前～
- ◆地域と共に ～全ての人が生きやすい社会を～
- ◆suginoko brand の確立 ～枠にとらわれないニーズベースの新しいチャレンジ～
- ◆多様な働き方 ～働きがいも働きやすさも～
- ◆みんなでつくる法人 ～戦略的で風通しの良い透明性のある持続可能な組織運営～

6. 法人の社会的責任・法令順守

【成果】

令和3年度は、理事、監事、評議員の役員改選年度となり、法令で定められた手順で改選を行った。顧問社労士、顧問税理士からの指導を受けて、行政通達等に準拠した労務管理、会計処理を遂行した。引き続き WAM ネットで法人情報を誰でも閲覧できるようにすることで社会の公器として情報公開をした。

2. 法人事業部

(1) 令和3年度重要実施事項

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
- ②人権を守る砦となる
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
- ④やさしさあふれる地域を耕す
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
- ⑥法人事業部の各担当業務を進める。

(2) 令和3年度の取り組み内容と評価

- ①新型コロナウイルスについて行政からの補助事業を法人としてまとめた。
ジョブサイトひむろの移転をサポートした。
- ②権利擁護虐待防止委員会の広報を1回ホームページで公開した。
- ③正職員内定者は11名であり、計画は未達成だった。
タウンホールミーティングを実施した。
- ④自閉症啓発イベントとして令和4年4月に映画上映会を実施した。
- ⑤収支予算の進捗管理を確実に進めた。
- ⑥給与計算の合理化のためにソフト導入を ICT 委員会の協力で進めた。

3. 萩の杜

(1) 令和3年度重要実施事項

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
- ②人権を守る砦となる
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
- ④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人

⑤健全でタフな財務基盤の構築

(2) 令和3年度の取り組み内容と評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) “萩の杜重度・高齢化対策プロジェクト”を継続して実施し、建物の改修も含めた“より小ユニットでの暮らしと個室化”の実現に向けた検討や他法人への見学を行なった。
- ii) 重度・高齢化を見据え、利用者の“働く”から“健康や生きがい”といった部分を検討しながら、事業所・職種間連携を図り、個別支援を進めた。
- iii) 新型コロナウイルス感染対策の徹底を行なったが、事業所内のクラスター発生があり、感染した利用者の重症化1名、死去1名があった。

②人権を守る砦となる

- i) PECSの研修に4名受講を行なった。また、門先生のスーパーバイズを通して、表出コミュニケーションの支援につなげた。
- ii) 業務振り返りシートは年1回のみとなった。また虐待事案が1件発生したことから、改善経計画を基に、改善を図っている。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 年間の個人計画を作成し、希望の研修参加や法人事業所間交流研修(2名)参加を行なった。
- ii) 年3回内部研修を行った。7月1月内部研修、12月実践報告会を実施した。1月の内部研修はテーマの希望調査を全職員にアンケートを取り、希望が多かったテーマで内部研修を行った。
- iii) 業務分担を行い、勤務表の作成等、役割ごとに業務を進めた。

④やさしさあふれる地域を耕す

- i) ふれっとなさはらの週末の有効活用についてはコロナ禍の中で進めることができなかった。
- ii) 感染症対策や感染状況を見ながら、実習生、見学の受け入れを実施した。
- iii) 感染症対策や感染状況を見ながら重度・高齢化対策プロジェクトや安全対策委員会、家族会定例会の実施を行なった。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 重度障害者支援加算取得の為、強度行動障害支援者養成研修への計画的受講(3名)を継続しておこなった。
- ii) 全体会議等において定期的に収支確認をおこない不要不急の支出を抑えるようにした。
- iii) 光熱水費軽減を目的にプロパンガス会社の変更を行った。

4. 短期入所(ぶれす・ふれいす Be)

(1) 令和3年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 必要に応じてサービス担当者会議等に出席し、関係機関との連携を図る。

- ii) 利用者満足度調査を実施し、サービス内容の振り返りをおこなう。
 - iii) 重症心身障害児者の受け入れについて、生活介護事業との連携を図る。
- ②人権を守る砦となる
- i) 業務の振り返りとeラーニングを活用し、権利擁護の意識を高める。
 - ii) 引き続き萩の杜と合同でリスクマネジメント活動を実施する。※ぶれす
 - iii) PECS研修に参加する等して、表出コミュニケーション支援を行う。
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
- i) 毎月の合同会議を継続し、情報の共有や課題解決に向けての検討をおこなう。
 - ii) 年3回の内部研修を継続し、ケース検討等を通じて支援力を高める。
 - iii) 夕方や土曜日の研修に参加しやすい様、シフト調整を行う。
 - iv) 年1回のストレスチェックを実施し、産業医との連携を図る。
- ④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人
- i) 緊急時の受け入れや満床時などの利用調整をおこない、利便性を高める。
 - ii) サービスの質の向上を図り、選ばれる短期入所事業所を目指す。
 - iii) 感染防止対策を徹底し、安心してご利用いただける様な環境づくりを行う。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
- i) 月1回収支の進捗管理を行い、収支改善に向けた取り組みを検討し実施する。
 - ii) ぶれす／Be短期入所の統合や機能整理等、安定した運営体制の確立を目指す。
 - iii) 高槻市内の同業者と連携し、行政に制度改善の提案や申し入れを行う。
- (2) 令和3年度の取り組み内容と評価
- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
- i) 計画相談のモニタリング等、適宜関係機関との連携を図っている。
 - ii) 利用者満足度調査については具体的に進めることはできなかった。
 - iii) 支援員の医療的ケアの事業所登録を行ない、生活介護事業と連携を図り、短期入所での受け入れできる体制を整えた。
- ②人権を守る砦となる
- i) 業務の振り返りは後期に予定していたが、新型コロナウイルスの影響で行なうことができなかった。
 - ii) 短期入所全体会議でeラーニングを視聴して、支援の振り返りを行なった
 - iii) 事故報告書を共有することにより再発防止に努めた。門眞一郎SVのPECS研修に参加した。
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織。
- i) 毎月の合同会議を実施し情報共有を行なう。
 - ii) 6月ケース検討合同会議を実施。9月、2月は新型コロナの影響により施設内のみで実施する。
 - iii) 配信での研修受講を実施した。シフト調整等を行ない、法人プロジェクトへの参加をする。サービス管理者等研修(基礎)を受講する。
 - iv) 対象職員のストレスチェックを実施した。

- ④やさしさあふれる地域を耕す。
 - i) 両事業所間の利用調整については適宜行なっている。
 - ii) 利用中の活動の見通し等について視覚的に伝える環境を整えている(両事業所)。
 - iii) 中山清司 SV とのケース会議を 6 月に実施した
 - iv) 萩の杜の新型コロナウイルス感染者発生に伴い、ぶれすを一時休所した
(期間：4/24-5/8、2/10-3/15、3/28-3/31)。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築。
 - i) 毎月の合同会議で収支の確認を行ない、利用量と支援のバランスを確認した。
 - ii) 現状の分析や今後の方向性等、経営会議にて検討を継続している。
 - iii) 高槻事業所連絡会と連携して、高槻市と他法人の日中一時、短期入所事業所(4 事業所)との意見交換会を行ない、日中一時支援の単価の底上げの提案をした。後日、高槻市の担当者がぶれいす Be 短期入所の見学に来られそこでも理事長も交えて意見交換を行なった。

5. ジョブサイトひむろ

(1) 令和 3 年度重要実施事項

- ①生涯に渡る地域での暮らしの実現
- ②人権を守る砦となる
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
- ④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築

(2) 令和 3 年度の取り組み内容と評価

- ①生涯に渡る地域での暮らしの実現
 - i) ジョブサイトひむろ建て替え 1 期工事が 12 月からスタートした。
 - ii) 事業所の基本理念の見直しを図り、建て替え後の事業計画に反映させた。
 - iii) 日中活動支援のミッション・ビジョン・プログラムの検討を行い、新たなプログラムの開発の検討を行った。
 - iv) ご家族、関係機関とのパートナーシップの強化に努めたが、コロナ禍により、対面での機会は減少した。
- ②人権を守る砦となる
 - i) ご利用者の意思決定支援と表出コミュニケーション支援を推進した。
 - ii) 権利擁護虐待防止計画の推進と進捗管理を行った。
 - iii) 説明責任と合理的配慮の徹底に努めた。
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - i) 非常勤職員の確保と定着に努めた。
 - ii) 新入職員に対するメンター制度を導入した。
 - iii) ICT 推進のため、環境や設備を整備し、業務の効率化を図った。
 - iv) 支援者間の連携を密にするため、事業所内での研修を通じ、支援の統一と質の向上につなげた。

④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) コロナ禍により、地域イベントが軒並み中止になったため、イベントへの参加や、地域資源の積極的な活用には至らなかった。
- ii) i) と同様の理由により、事業所からの発信や、地域社会とつながりを深めることはできなかった。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 事業所内で収支の進捗確認を毎月実施した。
- ii) 人員確保と計画的な研修受講により、重度障がい者支援加算の拡充を検討した。

(3) 評価

①生涯に渡る地域での暮らしの実現

- ・ジョブサイトひむろ建て替え1期工事は、2022年5月竣工を目指し、12月に着工。現在、建て替え後の新たなグルーピングについて、常勤職員を中心に検討している。補助金申請については、12月の令和3年度補正予算では要件に合わなかったものの、2022年2月に令和4年度予算にて申請し、2022年6月の内示待ちの状況である。
- ・建て替え後のイメージパース配布と併せ、ご家族を対象に希望する設備やプログラムについてアンケートを実施した。2期工事の図面作成の際の参考にしたい。
- ・10月15日に国立のぞみの園の古川氏に来所いただき、高齢化についての勉強会を実施した。ご利用者の高齢化、重度化や看取りに対しての日中活動の役割をあらためて考える機会になった。
- ・6月にICFの勉強会を実施した。既存のプログラムについては、コロナ禍のため、Zoomを活用して継続して実施した。ポールウォーキングのハイキング、登山のイベントは昨年に引き続き、ぶれいすBeと共同で実施した。
- ・コロナ禍のため、総会、定例会が書面で開催されたこともあり、年初に予定していたご家族を対象とした勉強会、交流会は実施できなかった。法人内GHとの連携会議は、年間予定に基づき実施している。

②人権を守る砦となる

- ・門先生のPECSのZoom研修会については、3回に分けて視聴会を実施した。10月のSVの際には、支援現場にて直接、および動画を見ながらSVをしていただき、2月の法人研修の際にはSVを受けたケースの事例報告も行った。
- ・6月～7月にかけて、eラーニングのコンテンツを使用し、人権研修を3回に分けて実施した。9月に法人のクレド、事業所の振り返りチェックシートを実施した。
- ・8月～9月にかけて京都ノートルダム女子大学、京都医療福祉専門学校の実習生の受け入れを行った。また10月～11月には、国立のぞみの園の実務者研修、6月、10月に大阪人間科学大学の実習受け入れも行った。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- ・非常勤職員の確保については、退職者の補充ができていない状況であり、建て替え工事に伴う定員増後の人員配置基準を満たすためにも、早急に確保する必要がある。
- ・メンター制度については、事業所内での周知、5月のキックオフ勉強会の後、月に1回

の頻度で面談を実施しており、メンター、メンティーからも次年度以降も継続したいとの意見が出ている。

- ・10月よりレジデンスなさはらとの間で Google ドライブ、Google チャットを活用した情報共有を開始している。次年度に向けハード面の整備を行い、事業所内や他 GH との間でも活用して行きたい。
- ・常勤職員を対象とした勉強会を毎月実施している。内容は、事例検討や医療に関わること等、多岐に渡るが、建て替え後のグルーピングや、工賃規程の見直しについても話し合いが行われている。

④やさしさあふれる地域を耕す

- ・コロナ禍のため、外販やイベントの機会は限られたが、高槻市役所や郡家すこやかプラザで実施された、たかつき〇まるしえ、福祉展に計4回出店した。また、DV防止啓発品や、人権週間の啓発品も受託した。
- ・高槻市役所 1F ロビーに5月～8月の間、自主製品（陶芸製品）の展示、啓発を行った。また、スクラム高槻（プレミアム付き商品券事業）第2弾に登録し広報を行った。
- ・昨年に引き続き、事業所内のアート展を実施した。投票による4作品をかんてんコラボアートに応募、1作品が入選し、3月に堂島リバーフォーラムにて展示された。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- ・毎月の全体会議にて予算の進捗状況を確認した。
- ・強度行動障がい支援者養成研修には基礎研修2名、実践研修には4名が受講した。ただ、人員配置基準の要件を満たすことが厳しい状況のため、加算の拡充には至っていない。

6. ふれいす Be 通所部門

(1) 令和3年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) プロジェクトチームを中心とし、地域の中で行う日中活動を検討する。
- ii) GH スタッフとの連携を深め、地域での生活をサポートする。
- iii) 2名の喀痰吸引実地研修を修了し、重症心身障害のご利用者もより安心して通所ができるように環境を整える。

②人権を守る砦となる

- i) PECS などの手法を用いて、意思表示の支援を推進する。また、選択場面を設定するなどして日常的に意思を表出する機会の設定を意図的に行う。2名が PECS のワークショップに参加する。
- ii) 権利擁護・虐待防止に関する内部研修を開催し自分達の支援を振り返ることが出来るよう、グループワーク等も実施する。
- iii) 呼称の在り方について事業所内で議論を深め、一定の方向性を見出す。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 年間研修計画を立案し、進捗管理を行いながら計画を推し進める。また、事業所内でフィードバック研修を開催し、学んだ事を共有できる機会を創出する。

ii) 正職員が法人内事業所間交流研修に参加する。また、嘱託職員やパートタイム職員にも周知し、希望者には交流研修の機会を設定する。同時に事業所内の交流研修も推進する。

iii) メンター面談を継続する。法人内のメンター育成研修にも参加し、メンター面談の質の向上を図る。

iv) ICT 事業のモデル事業所として、通信環境のインフラを整備する。

④ やさしさあふれる地域を耕す

i) カフェをギャラリーやコンサート会場などとして有料で提供し、地域の方々や学生などに事業所の事を知っていただく機会を創出する。また、近隣の学校や福祉事業所などにその旨を情報発信していく。

ii) 杉の子農園の野菜をご利用者が収穫し、地域の人へ販売を行う。

⑤ 健全でタフな財務基盤の構築

i) 新規ご利用者の獲得（生活介護で3名）。利用率の向上。

ii) カフェの収益増を図るとともに経費削減に努め、カフェ事業のマイナス収支を年間100万円改善する。また、カフェの赤字を軽減することで、就労継続支援B型のご利用者にお支払いする工賃と施設整備積立金を増やす。

(2) 令和3年度の取り組み内容と評価

① 生涯にわたる地域での暮らしの実現

i) 古紙回収等のリサイクル活動を行ない、各ARができる活動を行ない、地域の社会資源を使い実施を始めている。今後幅を広げていき、施設全体で取り組んでいけるように検討する。

ii) 法人内のGHとの連携会議を行なった。また他法人のGHともケース会議や電話等で連携を行なっている。今後は他法人のGHとも定期的に連携できるように相談支援とも協力しながら検討していく。

iii) 2名の喀痰吸引等研修の3号研修を終えて、登録を行なった。また短期入所でも医療的ケアが受けられるように施設の登録と実地研修を終えた職員の登録、また看護師の医療連携体制を整えた。今後はご利用者の医療的ケアの幅が広がっているため、対応できるように項目を増やしていく。

② 人権を守る砦となる

i) 2名の職員のPECSの基礎研修に参加する。また個別支援計画に基づきご利用者の意思表出する機会を意図的に増やしていった。まだ意思表出する機会も、ご利用者も限定的のため、対象を増やしていけるように事業所内部での勉強会等を企画していく。

ii) 常勤職員全体で権利擁護・虐待防止に関する勉強会をeラーニングとグループワークで行ない、各ARでも同じ流れで支援の振り返りを行なった。自身の支援を振り返る良い機会になったため、今後も継続して行なっていく。

③ 働く人のチャレンジと成長を支える組織

i) 職員の年間研修計画を立案し、振り返りも行ったが、フィードバック研修を開催するに至らなかった。また外部研修に行く機会も十分に取れていなかった。

- ii) 法人内事業所間交流研修が新型コロナの状況もあり、1名参加に留まる。非常勤職員の他事業所への見学は行ったが、交流研修の機会を設定できなかった。
 - iii) 2年目職員のメンター面談を上半期継続して行なう。下半期からは希望者を募るが0名だったため、TLとの面談を定期的を実施する。
 - iv) 通信環境のインフラの整備は完了する。共有フォルダの整理、業務用携帯のスマホ化等、ICTの活用を継続的に実施していている。
- ④やさしさあふれる地域を耕す
- i) 新型コロナの影響によりカフェの地域への利用促進は実施できなかった。FacebookやInstagramのSNSを活用して情報の発信を行なっている。
 - ii) カフェを利用して、杉の子農園の野菜の販売を行なっている。またSNSを使って情報発信行なっている。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
- i) 新規ご利用者を生活介護で3名契約している。ご利用者の長期入院や新型コロナによる利用自粛のため利用率の向上が図れていない。支援区分の見直しで4→5になったご利用者が2名おられる。
 - ii) 島珈琲との契約を見直し、仕入れからカフェ職員が関わり、経営面も意識しながら運営を行なっている。新メニューの立案、SNSによる情報発信、また家族会へのコーヒー豆、カフェチケットの販売などを行ない売り上げが増加した。
「7月～12月前年比月平均約14,000円増（緊急事態宣言時4月～6月除く）」

7. 地域生活支援部たかつき

(1) 令和3年度重要実施事項

① 生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) なさはらは、1人暮らしも含めて1人1人が望む地域での暮らしをチームで考えていく。また、高齢化対応の準備として萩の杜、先進的法人の事例から今後の対応、準備を学ぶ
- ii) もとまちは、スタッフの確保に努めるとともに、丁寧な支援を行い安定した暮らしの実現につなげる
- iii) 2丁目は、新たな支援体制を構築し、安定的に質の高い支援を目指す。ご利用者の高齢化の対応にも注力していく。
- iv) 共通して災害、火災の訓練、救急救命講習を行うと共に新たに感染症の対応訓練も実施する

② 人権を守る砦となる

- i) 個別支援計画書の質の向上を行い一人一人のニーズ、状態にあった支援計画を策定する
- ii) 意思表示(PECS, トーキングマット)、意思形成支援(チャレンジの支援)を継続し、意思を知るだけでなく、揺れる意思も確認しつつ本人の豊かな生活を支援する
- iii) アセスメントを丁寧に行い合理的配慮のある環境や対応を模索する。
- iv) 基本理念の浸透や、アンガーマネジメント研修の実施し職員意識、知識の向上を支える

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 法人のキャリアパスのプロジェクトの動向を見ながら、個別研修計画に加えて、コース制の導入を検討し1人1人の働き方、キャリアをサポートする
- ii) 正職員のチームマネジメント能力向上を目指し、組織としての総合力アップを目指す
- iii) スタッフ間コミュニケーションを図り1人1人の働きを支援する
- iv) 業務のスリム化、ICT化、外注化を行い業務の能率化と効率化を両立して実施する
- v) 新人職員の合同研修を各GHの先輩が行い、社会人スタートを安心してできるように寄り添う

④やさしさあふれる地域を耕す

- i) 地域の方に知っていただくため、情報発信や花壇整備等を行い「魅せるグループホーム」を目指す。また、地域の方との協同での防災対策を考えていく
- ii) コロナ禍であってもご家族に情報が届くようにZOOMや広報を使い情報を届ける
- iii) 地域資源の発見、開拓、連携を行い「ご利用者も事業所も地域もHAPPY」を目指す

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 週末利用を行うことで利用率の向上を図り収入増加を行う
- ii) ランニングコストを把握し、契約の見直しを検討するなど、固定費の削減を進める
- iii) 外部講師や重度知的障がいを対象としたGH開設、運営コンサルを行う等、収入確保に努める。また次世代を担うために現場職員の外部講師派遣同行を行う

(2) 令和3年度の取り組み内容と評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 国立のぞみの園の古川氏を招へいし、高齢化の勉強会を実施したことや、看取りを経験されている明桜会さんの視察に行き、高齢化について学んだ。また精神障害者の方を支援されている社会福祉法人ふらっぷの米尾さんにお越しいただき地域での暮らしの講演をいただいた。また事業所から3名を派遣し、ふらっぷでの見学・実習を実施した。
- ii) もとまちはスタッフ確保を行ったが、年度途中で離職する職員が出る等、下期はかなり厳しい体制となった。部署内でフォロー体制をとり新年度の体制整備の準備を行っている。
- iii) なさはらは、ひとり暮らし化の環境設定を行うことで安定した暮らしを実現してきている。今後は意思を尊重した望まれる暮らしの実現つなげたい。
- iv) 2丁目は、今期より毎週ミーティングを開催した。スタッフ間の意識や対応を統一することでご利用者の安定や豊かな暮らしにつながることを実感出来てきている。
- v) 防災訓練は、コロナ禍であることや年度途中の体制の変更もあり、通常の避難訓練等で終わった。なさはらでは夜間を想定した訓練に加え、消防署から消火器を借りる、消防署に電話するなどの実際に添った訓練を実施した。災害グッズの周知も行った。

②人権を守る砦となる

- i) 支援計画については、質の向上を目指し、策定会議、面談などを実施して作成している。ご利用者の意思を意識した計画を目指して、書式の改定も行った。またなさはらは担当制をやめ、より多くの職員で個別支援計画の策定・モニタリングを実施。多角的視点により、より本人のニーズに添った支援を展開しはじめている。

- ii) どのホームもご利用者からの意思表示を意識して、PECS やトーキングマットの取り組みを実施した。今後、ブラッシュアップが望まれる。また意思形成についてはネットの活用などに力をいれている。テイクアウトデイで食の意思形成もすすめている。
- iii) ご利用者の個別のアセスメント（特に周囲の環境との関係性におけるアセスメント）を行い、改修を行う等の環境調整を行った。アセスメントキットとして、評価キット、TTAP の導入をすすめた。TTAP は 3 名が実施からまとめまで可能となった。
- iv) もとまち・なさはらでは、基本理念の振りかえりチェックを作成するなど、基本理念の浸透やスタッフの意識の向上に取り組んだ。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 個別研修計画を策定した。またコロナ禍でも積極的にオンラインでの研修等に参加し、内部の 15 分研修において復命研修等を行い、フィードバックやプレゼンの機会をもった。一部の嘱託職員においては「正職希望コース」と「嘱託希望コース」のコース制も導入した。
- ii) なさはらでは「にじいろ制度」を実施。どのスタッフもチームマネジメントを意識して、仕事ができるようにした。まだサポートが必要な段階であるがチーム力は向上している。
- iii) スタッフ間の豊かなコミュニケーションを意識して取り組んでいる。週 4 日以上現場スタッフには雑談システム（メンター制度）を導入。特に非常勤スタッフの離職率は低く推移しており、効果も出てきている。
- iv) なさはらでは Google チャット・Google ドライブをひむろと共同で導入し、ひむろとタイムリーな情報共有を行うことが出来た。全ホームにも導入につなげていきたいと考えている。
- v) 新人職員への雑談システム（メンター制度）等の効果もあり、新人職員 5 名ともに、元気に働くことが出来ている。

③ やさしさあふれる地域を耕す

- i) なさはら、2 丁目、もとまちでは「魅せる事業所」の目的で、花壇整備を行い、地域の方に知っていただくことや、お声掛けいただくなどにつながった。共同での防災訓練までは至っていない。
- ii) なさはらでは番館ごとの懇談会や個別面談を zoom での開催を行った。もとまちでは親の会を zoom 開催し、全員にご参加いただけた。
- iii) ご利用者の 1 名は、他法人の日中活動先に変更を行い、連携をとって支援している。コロナ禍ということもあったが、余暇支援等では新たな地域資源を活用した。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) ご家族の高齢化等の理由で週末利用が増加している。もとまちではお弁当デーを実施し、日曜日の利用促進を図った。課題としてまばらに利用があることで、収入と人件費のバランスが悪いことがあがった。
- ii) ミーティング等で収支状況を定期的に確認した。ランニングコスト削減のための契約の見直しまでは至らなかった。
- iii) 大阪府サービス管理責任者研修では副部長が主講師を務め、ファシリテーターに職員を

派遣する等行った。また、強行研修、世話人研修、各地の虐待防止研修にも講師として参加し、貢献を行うとともに、収入確保（年間約 100 万円）につながった。

8. 地域医療支援部

(1) 令和 3 年度重要実施事項

- ①暮らしのビジョンの明確化
- ②利用者の表出支援、自己選択・自己決定支援
- ③全体ミーティングと定期的管理者・職員間の面談
- ④家族や地域の人を協働者としてアプローチする
- ⑤財務基盤の整備：業務効率化・役割明確化・訪問件数・収支の見える化

(2) 令和 3 年度の取り組み内容と評価

- ①3 か月に 1 回看護師訪問で氷山モデルシートで特性を把握。特性を活かした地域生活を明確化し支援につなげる。
- ②門先生の iPECS の講習に職員が参加。事業所内伝達講習を行い、必要な利用者に対して iPECS を利用した。
- ③毎週の全体ミーティングを行った。月一回程度の管理者・職員間面談は日程が合わず年に 1～2 回程度の回数しか行えていない。
- ④一部の利用者に対しては、本人のプログラム終了後に時間をとり、ご家族と話をする時間を設けた。地域との協働として学校訪問等により、訪問プログラムの内容伝達等を行う。
- ⑤業務の効率化、役割の明確化、訪問件数や収支の見える化を行う。
業務の効率化のために、訪問ルートや訪問時間、訪問担当の見直しを行う。移動距離の少ない同じエリアの訪問を行うことで、移動時間の短縮を図った。訪問のカバー体制を整え、新型コロナウイルス関連で出勤できなかったとしても、他の職員が訪問できる体制を整えた。「あと一件」を合言葉に件数を意識することで訪問件数を増やすことができた。

9. アクトおおさか

(1) 令和 3 年度重要実施事項

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) 発達障がい者地域支援力向上事業（発達障がい者地域支援マネージャー事業の後継事業）の実施
 - ii) 大阪府発達障害団体ネットワークへの参加、ペアレント・メンター事業の実施、ペアレント・トレーニング実施市町村のフォローアップ等の事業を通じて家族支援の充実を図る
 - iii) 他領域との連携強化を目指し、発達障がい者支援センター連絡協議会を継続実施する
 - iv) 直接相談から集約された支援ニーズや地域の課題を基に、大阪府発達障がい児者支援体制整備検討部会などで施策提言を行う
- ②人権を守る砦となる
 - i) 発達障害者支援センター事業の継続

- ii) 発達障害者支援センター事業を通じて、これまで制度のはざまに十分なサービスを受けてこられなかった人たちへの質の高いサービスを創造していく
- iii) 地域の支援機関との連携
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - i) 職員の人材育成を図る
 - ii) 法人内部署間交流研修の実施
- ④やさしさあふれる地域を耕す
 - i) 公開講座を実施し、発達障がい者の普及啓発を行う
 - ii) 武庫川女子大学大学院 臨床心理学専攻 公認心理師養成カリキュラムの一環として実習生を受け入れる
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) ランニングコスト、固定費などを見直し、経費削減を図る
- (2) 令和3年度の取り組み内容と評価
 - ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) 今年度より大阪府発達障がい者地域支援力向上事業を開始した（令和3～5年度）。障がい福祉に留まらず、各関連分野での支援力の向上と支援体制整備を目的に、引き続きアウトリーチでの市町村へのコンサルテーションを実施している。令和3年度は3市1町が活用。圏域の発達支援拠点も同行し、地域の現状について情報共有を行った。事業の啓発や数年後を見据えたコンサルの在り方についても大阪府所管課とも協議しながら取り組んでいく必要がある。
 - ii) 大阪府発達障害団体ネットワークへの参加、ペアレント・メンター事業の実施、ペアレント・トレーニング実施市町村のフォローアップ等の事業を通じて家族支援の充実を図った。
 - ・大阪府発達障害団体ネットワークに事務局として参加し、大阪府の発達障がい児者支援の現状や各団体の取り組み等について情報交換を行った。
 - ・ペアレント・メンター事業は、昨年度に続き新型コロナウイルスの影響で派遣数は14件と減ったが、オンラインで打ち合わせや活動を実施するなど、活動方法の幅は広がった。養成研修や交流会も実施。運営委員会では課題の整理や事業の発展について協議・検討し、今後は教育機関への啓発により力を入れていくこととなった。
 - iii) 連絡協議会を年2回開催し、関係機関と発達障がい児者支援に関する最新の状況を共有するとともに支援ネットワークの構築を図った。今年度はライフステージを通じて繋ぎの機能を担っている相談支援とのネットワーク構築に焦点を当て、1回目はアクトおおさかや発達支援拠点の事例発表を通して相談支援機関との連携について共有した。2回目は摂津市基幹相談支援センター施設長石井寛人氏に相談支援機関の役割について情報提供いただき、関係機関との意見交換を実施した。
 - iv) アクトおおさかへの相談で寄せられる府内の発達障がい児者の支援ニーズを把握し、定期的に大阪府とも課題等を共有した。大阪府発達障がい児者地域支援体制整備検討部会、成人ワーキング、子どもワーキングに委員として参加し、センター事業を通じて把

握しているご本人やご家族のニーズ、地域の支援課題などを代弁し、他の委員と共有した。

②人権を守る砦となる

i) 相談支援の延件数は 1687 件で、就労支援の延件数は 374 件であった。

ii) 延 271 支援機関と連携しながら直接支援を実施した。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

i) 神戸市のスクールカウンセラーとして従事されている山田奈津子氏に教育現場の現状について情報提供してもらい、教育と福祉連携の在り方についての SV を受けた。また、地域評価に基づく支援体制づくりや市町村へのコンサルテーションについて、摂津市基幹相談支援センター施設長で大阪府障がい者相談支援アドバイザーでもある石井寛人氏と意見交換した。

ii) 法人の他事業所から 1 名の実習受け入れを行なった。事前アンケートを通して実習ニーズの聞き取りを行い、プログラムを検討、実施した。複数回の実習を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大などの理由で 1 回のみとなった。

④やさしさあふれる地域を耕す

i) 公開講座支援者対象を 2 回、府民対象を 1 回の計 3 回実施した。支援者対象基礎講座では、三国丘病院院長の河口剛氏に様々な症例を通して医療の立場から発達障がいの理解と対応についてお話いただいた。支援者対象応用講座では、アクトおおさかに継続相談している当事者の方に生きづらさを感じ始めた時から現在に至るまでの経験をお話しいただいた。府民対象講座では、信州大学学術研究院（教育学系）教授の高橋知音氏に、高校卒業後の進路選択や大学での支援についてお話しいただいた。計 816 名が受講した。

ii) 武庫川女子大学大学院文学研究科臨床心理学専攻在籍の実習生を約半年間受け入れる予定であったが、入学者が少ないという先方の事情で中止となった。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

i) 新型コロナウイルスの感染症拡大を受け、研修や委員会がオンライン開催になったことにより、職員の出張にかかる交通費の支出が減った。

10. 相談支援・人材育成研修部

(1) 令和 3 年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

i) 福祉サービス利用の有無にかかわらず、必要な支援を受けながら、ライフステージに合わせた可能な限り住み慣れた地域で暮らしていけるよう支援する。

ii) 相談ニーズから地域課題を抽出し、自立支援協議会への提言をし、住みやすい街づくりに向けて市と他機関と一緒に検討を図る。

②人権を守る砦となる

i) 制度にとらわれることなく、クライアントにとって必要な支援が適切に提供されるよう、行政や事業所に対して積極的に働きかけを行う。

ii) 虐待防止・権利擁護の観点から、クレドを浸透させることを目的に、自分たちの行動

を振り返り機会を実施する。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 人材育成研修室のコンサルテーションのノウハウを法人内外でも共有する。
- ii) 相談支援を担える人材育成に向けて法人内へ発信し仕組み作りを目指す。

④やさしさあふれる地域を耕す

- i) 大阪府からのコンサルテーションに関する委託事業を通じて地域支援者の育成を図る。
- ii) 事業所や行政との連携を密に持ち、質の高い相談支援や利用者支援の在り方を広め、障害福祉の向上に貢献する。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) コンサルテーションの金額を見直し、収支安定を図る。
- ii) 業務の効率化を図るために、ICT の活用を積極的に取り入れる。
- iii) 加算要件を満たす人材の安定的確保を目指し、収支基盤を確保する。

(2) 令和3年度の取り組み内容と評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) コロナ禍が継続する中オンラインツール等を活用しながら委託相談を継続的に実施している。また、自閉症の女性の子育て支援の支給決定の調整に関わるなど地域での暮らしをサポートしている。
- ii) こどもワーキングでは障がい児の通学支援及び医療ケア児支援について提言した。

②人権を守る砦となる

- i) 新事業「高槻市単身生活体験事業」を市内で初めて運用し、事業を通じて単身生活への支援を実施した。
- ii) クレドの振り返りを実施した。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) コアメンバーの育成 (TTAP の実施) と PECS の担当者育成など人材育成の取り組みを実施した。また、事業所間交流で法人職員のコンサルテーション同行を行った。
- ii) 法人研修、法人機関紙にて相談支援の実践報告、実態報告を行った。

④やさしさあふれる地域を耕す

- i) コロナ禍で予定の変更や実習中止もあったが年間通じて継続して事業を実施した。
- ii) 「(相談支援の) 加算に関する勉強会」「お金の管理とトラブルの話」(あんだんて、wish 共催) など勉強会を開催し高槻地域での相談支援の質の向上に取り組んだ。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) コンサルテーションの収支を見直しと訪問希望数の増加で収支の向上につながった。
- ii) ブルーオーシャン (介護記録ソフト) を導入した。現場の状況に応じてソフトの内容をカスタマイズして運用している。
- iii) 要医療児者加算を 11 月から wish が取得開始に向け進めた。また、主任相談支援専門員、現任研修の受講を進め加算要件を満たす人材確保に努めた。

1 1. 地域生活支援部よど

(1) 令和3年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) レジデンスよど三津屋北ホーム3階を開所し、安定した事業運営を図る。
- ii) 事業所間の連絡、連携を基に総合的な支援を展開する。
- iii) 各事業に合わせた、ご利用者にとって質の高い支援を実施する。

②人権を守る砦となる

- i) 意思決定支援、表出コミュニケーション支援について学習と実践をおこなう。
- ii) 利用者満足度調査を実施する。
- iii) 権利擁護やリスクマネジメントについて実践を深める。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 個人研修計画のサイクルを回す。
- ii) 1on1ミーティングやメンター制度の実施等、コミュニケーションの機会を増やす。
- iii) 定期的な内部研修の開催や外部SVの実施等、支援の質を高める。

④やさしさあふれる地域を耕す

- i) 日中活動やグループホームでの暮らしを通じて、地域とのつながりを増やす。
- ii) つながりを通じた啓発活動を実施していく。
- iii) 利用できる地域資源を増やす。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 職員個々がコスト意識を持つ。
- ii) 新規利用者の受け入れをおこない、定員充足率を上げる。
- iii) 加算取得や事業継続に必要な研修を受講する。

(2) 令和3年度の取り組み内容と評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 三津屋北ホームを全フロア開所することができたが、1名のご利用者はまだ移行支援中である。スモールステップを踏みつつ次年度中に月の半分程度の利用を目標とする。
- ii) 事業所間の連携では新型コロナの影響もあり進めにくい部分もあったが、関係構築に努め連携先を増やすことができた。
- iii) 質の高い支援については意思確認の機会を増やすことや意思決定支援についての理解を進めることにとどまっているため、引き続き継続する必要がある。

②人権を守る砦となる

- i) 意思決定支援については上記のように理解を進めるにとどまった。表出コミュニケーション支援は実践を進めており、次年度以降も取り組みを進めていく。
- ii) ご家族とご利用者の満足度調査をそれぞれ実施した。ご利用者は数名にとどまったので次年度は対象者を増やして継続する。
- iii) 権利擁護に関しては権利擁護虐待防止計画に沿って実施した。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 現場職員の確保が優先となり、個人研修計画を計画通りに進められなかった。

- ii) メンター制度は実施したが、1on1 ミーティングは企画検討のみで実施できなかった。よど、ランチでは終礼等の活用でコミュニケーションの機会を増やした。
- iii) 事業所の状況で実施できなかった部分はあるが内部研修等も積極的におこなった。研修内容を実践につなげていけるよう意識して引き続き進めていく。

④やさしさあふれる地域を耕す

- i) 新型コロナウイルス感染対策に留意しつつ、地域へ出る活動を継続した。
- ii) 啓発活動まではおこなえなかったが、機会があるごとに地域に知ってもらうよう努めた。
- iii) レジデンスよどでは、ご利用者の活動や生活に合わせて利用できる地域資源を増やした。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 職員のコスト意識浸透までは至って無いが、収支が厳しい状況は周知されている。
- ii) 新規ご利用者が1名増えたが、他事業所へ移行される方の人数の方が多かった。
- iii) 加算等の要件に該当する研修への受講を進めたが、当初の予定数よりは少なかった。

1 2. 就労支援部

(1) 令和3年度重要実施事項

①ジョブジョイントおおさか

- i) 生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - ・就労移行は「在宅勤務を想定した訓練」「施設外作業」を充実させる。
 - ・前年度同様に重点テーマは「自己肯定感」「知的障害を伴う人の就労支援」とする。
 - ・大学生支援は、働くチカラ PROJECT を通した「大学連携」を重点テーマに取り組む。
- ii) 人権を守る砦となる
 - ・利用者、就職者の満足度調査を定期的実施し、web サイト等で情報公開する。
- iii) 働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - ・研修担当を設け、内部研修や外部講師活用などスタッフ向け研修会を定期開催する。
- iv) やさしさあふれる地域を耕す
 - ・新規の企業開拓を増やし、JC 事業で丁寧な就労支援を行う（目標数、就職者：17名）。
 - ・学生バイトも活用し、就職者の生活支援、余暇支援（シュミラボ等）の充実を目指す。
 - ・「地域連携」をテーマにした地域向け広報誌の発行を具体的に進めていく。
- v) 健全でタフな財務基盤の構築
 - ・チャットワーク、Google 等の活用による業務効率とペーパーレスを推進する。

②LaLa-chocolat TAKATSUKI

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) ご利用者が楽しくやりがいを持って働ける環境を提供する
- ii) 工賃の安定的な支給
- iii) 生産活動以外の活動の充実（働くモチベーション、働きがいの向上を目指す）

②人権を守る砦となる

- i) スタッフ一人ひとりの人権への意識の向上を図る
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - i) 人材育成のための内部研修の実施
- ④やさしさあふれる地域を耕す
 - i) 地域のお客様に満足いただける店舗づくりを目指す
 - ii) 受託作業や施設外作業の開拓、店舗運営を通して、社会との繋がりを強める
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) 定員充足率の向上
 - ii) 年間の総売上 2450 万円を目指す。

(2) 令和 3 年度の取り組み内容と評価

①ジョブジョイントおおさか

i) 就労移行支援プログラムでは、利用者の方に Zoom を使って企業研究講座を受講いただくなど、Zoom や Google を使った訓練場を増やすことができた。また、講座ではオンラインでのマナーや在宅勤務で求められることを座学で学ぶ機会を提供することもできた。施設外作業においては、新規開拓に向けて電話かけなどの開拓は進めたものの、新たな企業での施設外作業を実施することはできなかった。ただ、既存の施設外作業はコロナ禍の中でも継続実施でき、次年度においても新規開拓を続けていきたい。

重点テーマにおいては、SV の中山さんに内部研修で特性理解についての講義を実施していただいた。また、大学連携では今年度より関西大学の学内で就活準備講座を 7 回実施し、夏休みには 1 名の学生さんのインターンシップも実施するなど、関西大学との連携を深めることができた 1 年であった。

ii) 昨年度に続き、今年度も利用者満足度調査を実施予定であったが、予定通りに実施することができなかった。令和 4 年度は、11 月に実施することで予定しており、利用者・家族ニーズを支援サービスに反映できるような組織体制を作っていきたい。

iii) 今年度は内部研修の企画を 2 名の職員に担当してもらい、全スタッフへのアンケート調査、講師選定、当日の運営を担っていただいた。研修は、兵庫教育大学の助教を務める池田先生にご講義いただき、心理検査の読み取り方や就労支援の進め方を教えていただいた。参加したスタッフからの満足度も高く、次年度も同様の進め方で内部研修を開催したいと考えている。

iv) 令和 3 年度の就職実績は 16 名となり、目標の 17 名には届かなかったもののコロナ禍の中で一定の成果を得ることができた。また、ジョブコーチ支援事業を 2 名の就職支援で活用することができ、就職直後の支援を手厚く取り組めたとともに、収入増にも貢献することができた。

定着支援・余暇支援では、取り組みのひとつとして実施している「シュミラボ」は毎月継続的に開催することができた。地域連携においては、「地域広報誌」の発行に向けて検討を重ねたものの、具体的なイメージを深めることができず次年度以降も検討を重ねていきたい。

v) ICT を進めるため、令和 3 年度はパートスタッフ含む全スタッフにチャットワークを

有料でアカウント取得を行なった。日々の情報共有や報告事項はチャットでやりとりしてもらい、情報量が見える化されることによる業務過多を感じることもある一方で、就労支援などで外出するスタッフにとっては所内にいなくてもリアルタイムの共有ができることはコミュニケーションの活性化することにも繋がっていたと感じている。また、ICTを進めることによってペーパーレスが進み、A4用紙等の購入費や印刷代などが削減できていることもひとつの成果であったと考えている。ICTの取り組みは、引き続き進めていきたい。

②LaLa-chocolat TAKATSUKI

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

i) 上半期に事業所の行動指針（クレド）を作成し、全スタッフで共有した上で、下半期から毎週の振り返りを実施することで、行動指針の浸透を図った。今後も継続的に実施し、全スタッフで浸透を図っていきたい。

ステップでは、新規に2件の受託作業を開拓し、作業内容の充実を図ることができた。

ii) 工賃規程を改定し、事業所内での工賃支給額の格差を是正するとともに、平均工賃の向上を図った。引き続き収支改善を図り、工賃アップを図っていく。

iii) ニーズ調査アンケートの結果を基に、新たに運動プログラムや勉強会のプログラムを実施した。またレクリエーションの頻度を増やし、余暇の充実も図ることができた。

②人権を守る砦となる

i) 権利擁護・虐待防止セルフチェックを実施した。また、行動指針（クレド）の作成・振り返りを通して、人権への意識の向上を図った。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

i) 内部研修やケース会議を通して、特性理解などを深める機会を設けたが、十分な頻度では実施できなかったため、来年度は計画的に定期開催していく。

④やさしさあふれる地域を耕す

i) お客様アンケートを実施し、満足度やニーズ調査を行った。満足度90%以上という結果だったため、引き続きお客様に満足していただけるように努めていく。

会員のお客様向けにクーポンの配布やプレゼント商品のお渡しなど、例年よりもキャンペーンを多く実施することができた。引き続き、会員の方へ感謝をお伝えできるような取り組みを検討し実施していきたい。

ii) ステップでは、2件の新規受託作業を開拓することができた。信頼関係を築き、安定した受注を得られるよう努めていきたい。店舗では、お客様アンケートの実施をしたり、外部販売先での継続的な販売、高槻グルメピクニックなどの地域のイベントにも参加した。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

i) 3名の新規利用者を受け入れることができた。

ii) 年間の総売上2420万だった。

1.3. 児童発達支援部

【大阪地区】

- (1) 令和3年度重要実施事項
1. 生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - (1) an/az の大阪市委託の専門療育を実施する
 - (2) 元 PASSO のご利用者を対象にした、中高生の小集団イベントを開催する
 2. 人権を守る砦となる。
 - (1) 法人のクレドを共有し、人権意識の向上や虐待防止につなげるための仕組みづくりを行う
 3. 働く人のチャレンジと成長を支える組織。
 - (1) 部内研修や事業所間交流を活性化させる
 4. やさしさあふれる地域を耕す。
 - (1) 各地域の自立支援協議会や相談支援、その他関係機関との連携強化を目指す
 5. 健全でタフな財務基盤の構築
 - (1) 振替実施で利用率を安定させ、関係機関連携や家庭連携における加算を積極的に取得する
 - (2) 令和3年度の取り組み内容と評価
1. 生涯にわたる地域での暮らしの実現
- (1) an/az の大阪市委託の専門療育を実施し、az は委託契約満了に合わせ事業所閉所することになった。
 - (2) 中高生支援について、コロナの影響もありイベントは1回のみで開催となった。
2. 人権を守る砦となる
- (1) 毎月の地区会議で、虐待防止とひやりはっと事例について共有を行った。
 - (2) クレド、職員行動チェックを行った。
3. 働く人のチャレンジと成長を支える組織
- (1) あゆみとの合同部内研修や地区の内部研修を実施した。
 - (2) 事業所間交流研修であゆみや萩の杜、JJ での実習を行った。
4. やさしさあふれる地域を耕す
- (1) 家庭支援が必要だったり困難ケースについて、各地域の子ども部会や相談支援、その他関係機関との連携を行った。
5. 健全でタフな財務基盤の構築
- (1) 可能な限り、振替実施を行った。また、事業所内相談支援加算等を積極的に取得した。

【発達支援あゆみ】

- (1) 令和3年度重要実施事項
1. 生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - (1) 単独通所事業・個別療育事業・障害児一時預かり事業の安定的な事業実施
 2. 人権を守る砦となる
 - (1) 職員の人権意識の向上や虐待防止に向けた実践

3. 働く人のチャレンジと成長を支える組織

(1) 職員の将来のビジョンを確認し、研修や事業所交流を活用した部内全体での人材育成

4. やさしさあふれる地域を耕す

(1) 定例会議等を活用し、豊中市児童発達支援センターとの連携強化

(2) 豊中市子育て発達支援プログラム実施支援の業務委託を受け、豊中市立児童発達支援センター主催のペアレント・プログラム、ペアレント・トレーニングのSVの実施

5. 健全でタフな財務基盤の構築

(1) 3事業の事業費・事務費・人件費等についての把握と対応

(2) 関係機関や市民へ事業内容の周知と利用者確保

(2) 令和3年度の取り組み内容と評価

1. 生涯にわたる地域での暮らしの実現

(1) 単独通所事業では、年度途中で6名を受け入れ、8月より1クラス増設して実施。個別療育事業は、前期・後期ともに、定員に達する申し込みがあった。個々のニーズに合わせて、ペアセッションやグループセッション、所属園訪問、保護者座談会等を実施。障害児一時預かり事業は、関係機関からの紹介による新規利用登録が増加。

2. 人権を守る砦となる

(1) 職員行動チェックリストを実施。ひやりはっと報告書、事故報告書を使用して、その都度職員間で共有して対策を検討。単独通所事業では「ひやりはっと係」が主導して、配慮が必要な利用児のリストを作成して職員間で情報共有を実施。クラス内で気になる児童や保護者の確認、虐待防止について話し合い、月1回の主担会議で共有。

利用児の意思決定の機会を増やし、PECS等の表出コミュニケーション支援を実施。

3. 働く人のチャレンジと成長を支える組織

(1) あゆみの行事に大阪地区の職員も参加し、事業所間交流を実施。職員向けにペアレント・トレーニング研修会を実施(5月～、月1回)。PECS輪読会を企画し、参加希望者で実施(6月～、月1回)。事業所内で、全体会議・主担会議・ケース会議・係会議を実施(各月1回)。法人内の事業所への見学や実習を実施(ふれいすBe、萩の杜、ふれす)。外部の児童発達支援センターの見学を実施(東大阪・豊中市)。新人職員はPECSレベル1ワークショップを受講し、事業所全体でPECSの取り組みを実践発表して、門眞一郎先生からSVを受けた。

4. やさしさあふれる地域を耕す

(1) 月に1回、豊中市立児童発達支援センター、豊中市こども相談課との定例会議にて、現状の情報共有や今後に向けて意見交換等を実施。また、豊中市児童発達支援センターへあゆみ職員が見学に行った。

(2) 「豊中市子育て発達支援プログラム実施支援業務」を受託し、「ペアレント・プログラム」「ペアレント・トレーニング」について、豊中市立児童発達支援センター職員と定期的な打ち合わせや振り返りを実施。

5. 健全でタフな財務基盤の構築

(1) 資金収支計算書を確認し、各支出等について把握。

(2) 関係機関に単独通所事業や個別療育事業の見学及び事業内容や利用児募集の周知を行った。あゆみのフェイスブックを開設し、随時投稿をあげている。

II. 各組織・事業の実施報告

1. 法人本部

(1) 理事評議員会

理	評	開催日	決 議 事 項	そ の 他 の 事 項
第130回		令和3年 5月31日	第1号議案 理事・監事候補者推薦の件 第2号議案 評議員選任・解任委員選任の件 第3号議案 諸規則、規定類の改正の件 第4号議案 令和2年度 事業報告承認の件 第5号議案 令和2年度 決算承認の件 第6号議案 令和2年度 監事監査報告の件 第7号議案 理事長職務執行状況の件	
	第 69 回	6月20日	第1号議案 理事監事選任の件 第2号議案 令和2年度 事業報告承認の件および令和3年度 事業計画報告の件 第3号議案 令和2年度 決算承認の件および令和3年度 予算報告の件 第4号議案 監事監査報告の件	
第131回		6月20日	第1号議案 理事長、副理事長選任の件	
第132回		8月30日	第1号議案 諸規則、規程類の改正の件 第2号議案 役員等損害賠償責任保険契約の件 第3号議案 理事長職務執行状況報告の件 第4号議案 事業計画推進状況の件 第5号議案 ジョブサイトひむろ建替えにともなう設計・監理業者の選定の件	
第133回		11月3日	第1号議案 ジョブサイトひむろ建替工事（1期工事）の入札スケジュールの件 第2号議案 ジョブサイトひむろ建替工事（1期工事）に係る公告事項の件	
第134回		11月14日	第1号議案 ジョブサイトひむろ建替工事（1期工事）入札参加業者の決定の件 第2号議案 ジョブサイトひむろ建替工事（1期工事）に係る予定価格の決定の件	

			第3号議案 独立行政法人福祉医療機構からの借入の件	
第135回		11月29日	第1号議案 諸規則、規程類の改正の件 第2号議案 (仮称)レジデンスよど第2ホームの開設に向けての活動の件 第3号議案 令和3年度補正予算案の件 第4号議案 理事長職務執行状況報告の件 第5号議案 事業計画進捗状況の件	
第136回		11月30日	第1号議案 ジョブサイトひむろ建替工事(1期工事)請負契約に関する件	
第137回		令和4年 3月28日	第1号議案 法人組織再編および部長人事の件 第2号議案 諸規則、規程類の改正の件 第3号議案 理事長報酬承認の件 第4号議案 第5次5ヵ年中期計画(案)の件 第5号議案 令和4年度 事業計画(案)の件 第6号議案 令和4年度 予算(案)の件 第7号議案 定時評議員会開催の件 第8号議案 理事長職務執行状況報告の件 第9号議案 役員等賠償責任保険契約の件 第10号議案 (仮称)レジデンスよど第2グループホーム賃貸借契約の件	

(2) 職員定期健康診断

健診内容：35歳以上の社会保険加入者は「生活習慣病予防健診」を受診。

上記以外の職員は「一般健診」を受診。

【高槻地区事業所】

日程：令和3年10月1日から令和4年3月24日まで

場所：愛仁会 総合健康センター

健診対象者：週あたり20時間以上勤務の職員261名。

【十三地区事業所】

日程：令和3年10月4日から12月1日まで

場所：医療法人健昌会 淀川健康管理センター

健診対象者：週あたり20時間以上勤務の職員44名。

【自閉所療育センターLink】

日程：令和3年9月2日から9月14日まで

場所：医療法人 敬節クリニック

健診対象者：週あたり20時間以上勤務の職員5名。

【こども発達支援センターaz】

日程：令和3年9月24日から10月16日まで

場所：住吉民主診療所

健診対象者：週あたり20時間以上勤務の職員3名。

【アクトおおさか】

日程：令和3年10月4日から11月22日まで

場所：橘甲会 大阪予防医学健診センター

健診対象者：週あたり20時間以上勤務の職員7名。

【発達支援あゆみ】

日程：令和3年11月15日から令和4年1月31日まで

場所：一翠会千里中央健診センター

健診対象者：週あたり20時間以上勤務の職員17名。

(3) 高槻地域生活総合支援センター会議

①目的

i) 第4次中期計画の進捗管理

ii) 第4次中期計画前半3か年のモニタリングおよび後半2か年の計画策定

②構成メンバー（メインメンバー）

- ・萩の杜 富 貴大（副施設長）
- ・ジョブサイトひむろ 森田耕平（施設長）
- ・ぷれいすBe 松本理恵（副施設長）
- ・児童発達支援部 古東千鶴（課長）
- ・地域生活支援部 伊名岡宏（副部長）、辻本紗弥（副部長）
- ・地域医療支援部 神垣律子（管理者）

（サブメンバー）

- ・萩の杜 勝部真一郎（施設長）
- ・ぷれいすBe 竹内 恒（施設長）
- ・地域生活支援部 平野貴久（部長）
- ・地域医療支援部 小林哲理（部長）

③検討内容

i) 第4次中期計画の進捗管理

・4月～8月にかけては進捗管理を行なう。

ii) 第4次中期計画の4か年の振り返り

・12月～2月に4か年の振りかえりを実施した。

(4) 大阪発達障害総合支援センター会議

①目的

大阪発達障がい総合支援センターの各事業所における管理運営についての協議

②構成メンバー

- ・相談支援・人材育成支援部 山根 和史
 - ・アクトおおさか 岡 あゆみ
 - ・地域生活支援部よど 下 裕幸 原田 智弘
 - ・就労支援部 星明 聡志
 - ・児童発達支援部 新谷 沙弥香 市原 来美
 - ・法人事業部 佐々木 寛昭
- 以上 8名

③検討内容

- i) 第4次中期計画に基づく広域特化地区の進捗管理
 - a.主任主体の研修検討と実施について
 - b.人材育成とSV体制について
 - c.第4次中期計画のモニタリングと最終年度総括
- ii) 事業所間交流について
- iii) 情報共有

(5) 医療連携推進室会議

①目的

法人の医療的課題の検討と対策についての協議

②構成メンバー

- ・訪問看護ステーション 小林 哲理
 - ・菽の杜 勝部 真一郎
 - ・地域生活支援部よど 下 裕幸
 - ・ジョブサイトひむろ 森田 耕平
 - ・ふれいす Be 奥平 健正
 - ・地域生活支援部たかつき 平野 貴久
 - ・法人事業部 佐々木 寛昭
- 以上 7名

③検討内容

- i) 真野先生との委託業務について
- ii) 複数入院体制と病院との連携について
- iii) 意思決定支援と意思確認書について
- iv) BCPについて
- v) 新型コロナウイルス感染対策について
- vi) 法人研修の企画実施

④令和3年度検討課題

- ・医療連携推進室の位置づけ・運営についての確認
- ・医療職の働き方、(訪問看護職員の)他事業所への貢献の仕方
- ・感染症対策、体制(委員)、ガイドライン
- ・BCP(災害/感染)対策
- ・入院体制・病院との連携

(6) 権利擁護・虐待防止委員会

①目的

- ・第4次中期計画「人権を守る砦となる」の遂行
- ・令和3年度権利擁護虐待防止計画（法人全体、各部）の遂行と進捗管理
- ・権利擁護虐待防止クレドの浸透
- ・表出コミュニケーション支援の実施
- ・法人内で虐待事案等が発生した場合の共有と意識の確認

②令和3年度権利擁護虐待防止責任者および委員

部署名	責任者	委員
萩の杜	富 貴大	勝部真一郎
レジデンスなさはら 2丁目	井上裕加里	中山晴美
レジデンスなさはら	竹内久美子	伊名岡宏 足立優奈
レジデンスなさはらもとまち	辻本沙弥	坪内いづみ
ジョブサイトひむろ	森田耕平	
ふれいす Be	松本理恵	竹内 恒 松本ゆかり
ジョブサイトよど・ ジェイブランチよど	倉窪明子 中垣内貴恵 藤谷沙紀	原田智弘 下 裕之
就労支援部	星明聡志	山田 優
児童発達支援部	岩城 望	岩城 望
地域医療支援部	徳光 薫	小林哲理
相談支援・人材育成研修部	山根和史	
アクトおおさか	岡あゆみ	藤田佑樹
総務部	佐々木寛昭	
外部委員	河坂昌利	
担当理事	平野貴久	

③令和3年度委員会経過および検討内容

<p>▼第1回定例会 4月23日（金）15名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度権利擁護虐待防止計画 決意表明 ・各部トピックス ・身体拘束について（やむなく身体拘束をする場合の確認） ・クレドポスター、クレド名刺デザインの活用について
<p>▼第2回定例会 6月25日（金）19名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部権利擁護虐待防止計画の進捗確認 ・「身体拘束適正化委員会」の件、「身体拘束の指針」作成の件 ・権利擁護虐待防止委員会に参加しての感想

<p>▼第3回定例会 8月27日(金) 22名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部の進捗確認 ・法人クレド振り返りチェック実施スケジュールの確認 ・「身体拘束の指針」作成の件
<ul style="list-style-type: none"> ・9月初旬にクレド振り返りチェックを配布。 ・9月末までに回収し、集計を行った。
<p>▼第4回 定例会 10月22日(金) 15名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クレド振り返りアンケート結果から浸透度について検証。 ・各部進捗 ・身体拘束の指針の整備
<p>▼第5回定例会 12月24日(金) 16名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部進捗確認 ・萩の杜虐待事案の件(その後の経過報告)
<p>▼第6回定例会 2月25日(金) 16名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部進捗確認 ・萩の杜11月の虐待事案の改善報告 ・「身体拘束の指針案」の説明と今後の運用の確認
<p>▼臨時権利擁護虐待防止委員会 12月3日(金) 13名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萩の杜虐待事案について経過報告・要因分析(支援の課題、環境の課題) ・今後の対策についてのアイデア ・今後の確認
<p>▼第2回臨時権利擁護虐待防止委員会 3月22日(水) 10名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萩の杜不適切事案の件、通報の件の経過説明 ・北摂杉の子会の支援のあり方について意見交換と確認

(7) 杉の子農園プロジェクト

①令和3年度の取り組み内容

- i) 杉の子農園収穫祭は新型コロナウイルスのため、集合による飲食を伴うイベントの開催は難しいと判断し、ジョブサイトひむろ、萩の杜、ふれいす Be の昼食に、杉の子農園で収穫した野菜を使った1品を加えて、秋のお弁当として提供する。また感染症対策を講じた上、収穫した現地でそのお弁当をご利用者に食べてもらう事を各事業所に分かれて実施した。
- ii) 大阪知的障害児者サポート協会の助成事業「杉の子農園収穫祭」に対して、100,000円の助成金をもらう。

②構成メンバー

ふれいす Be	竹内恒(プロジェクトリーダー)	松本理恵
萩の杜	川部主計	池田裕哉
ジョブサイトひむろ	森田耕平	近藤晶 中尾尚生
杉の子農園実務職員	楠目守	
アドバイザー	沖本卓郎	

③まとめ

- i) 「地域に生きる」の実践モデルの一つとして、休憩所を地域の方々に活用していただきながら、ご利用者や職員、ご家族とも交流されるなど、コミュニティの場としての機能を果たすことが出来た。
- ii) 農園収穫祭の実行委員会形式として行なうことを検討していくことを目標に上げたが、新型コロナウイルスの影響で収穫祭の検討ができなかったため、次年度への継続とする。次年度の農園収穫祭の開催についても、状況を見ながら、開催の是非を検討していく。

(8) 法人全体研修

研修日	研修内容	講師
令和3年 4月17日	令和3年度年度方針について理事長と職員対談・資格表彰・ICT委員会PECS研修・キャリアパスPJ報告・令和元年業務貢献表彰継続報告	松上理事長 法人事業部 ICT委員会 キャリアパスPJ
令和3年 7月17日	業務貢献表彰優秀賞の事例発表 (オンライン開催)	該当者
11月20日	業務貢献表彰優秀賞の事例発表 第5期中期計画プロジェクト報告 人権研修(オンライン開催)	該当者 中期計画PJ 虐待防止委員会
令和4年 2月5日	第五次五か年中期計画 (オンライン開催) PECSの実践報告	松上理事長 パブリックハーツ株式会社 代表取締役 水谷 香織 氏 中期計画PJ 人材育成研修室室長 山根和史

(9) 内定者職員研修

研修日	内容	講師
令和3年 11月20日	業務貢献表彰優秀賞の事例発表 第5期中期計画プロジェクト報告 人権研修(オンライン開催)	該当者 中期計画PJ 虐待防止委員会
令和4年 2月5日	第五次五か年中期計画 (オンライン開催) PECSの実践報告	松上理事長 パブリックハーツ株式会社 代表取締役 水谷 香織 氏 中期計画PJ 人材育成研修室室長 山根和史

(10) 新入職者研修

研修日	研修内容	講師
令和3年 5月14日	法人設立の経緯、理念、沿革について 社会人になるにあたって	松上理事長 植松副理事長
6月11日	労務管理、人事考課、予算等について	法人事業部
8月20日	ビジネスマナーについて	就労支援部
9月10日	メンタルヘルス・ハラスメントについて	法人事業部
10月8日	権利擁護、虐待防止について	萩の杜 地域生活支援部たかつき
12月10日	コミュニケーション、チームビルディング について	地域生活支援部よど
令和4年 1月14日	障がい福祉制度の概要について 個別支援計画の考え方について	相談支援部
3月11日	1年間の振り返りと次年度に向けて	下理事

2. 法人事業部

(1) 機関誌

発行月	主な内容	発行部数
4月	令和3年度方針、業務貢献表彰報告	3,500
7月	業務貢献表彰報告	3,500
10月	業務貢献表彰報告	3,500
1月	新年を迎えて、業務貢献表彰	3,500

3. 萩の杜

(1) 萩の杜施設入所：生活介護

①萩の杜会議：毎月1回開催

i) 萩の杜内部所間の連絡調整

②萩の杜運営会議：毎月1回開催

i) 管理職・現場職の連絡調整

ii) 事業計画、職員体制の検討

iii) 内部研修会の企画運営

日程	研修内容	講師
7月15日	合理的配慮に基づく支援	桶谷茜音
12月15日	萩の杜 実践報告会	各ユニット担当 (講師：山根和史)
1月28日	高齢期ダウン症について	松本浩典

③生活グループ支援会議（施設入所支援）：毎月1回開催

i) 施設入所支援各グループに関する事項を共有、検討

- ii) 業務等に関する事項を共有、検討
- iii) 利用者支援に関する事項の共有
- ④ふれっと支援会議/ふれっとなさはら支援会議（生活介護）：毎月1回開催
 - i) 施設入所支援各グループに関する事項の共有、検討
 - ii) 業務等に関する事項を共有、検討
 - iii) 利用者支援に関する事項の共有
- IV) レクリエーションの企画、立案、評価
- ⑤リスクマネジメント委員会：毎月1回開催
 - i) ひやりはと報告及び事故報告内容共有、意見交換
 - ii) 再発防止策等の検討
- ⑥安全対策委員会（萩の杜家族会と協同）：コロナ禍のため、12月10日のみ開催
 - i) ひやりはと報告及び事故報告内容共有、意見交換
 - ii) 再発防止策等の検討

(2) 保健看護

①保健衛生衛生業務

- i) 身体測定（年2回）、体重測定（月1回）、血圧測定（有所見者のみ月1回）
- ii) 健康診断
 - a. 内科健診（年2回）前期：6月10日 後期：12月9日

②保健看護業務

- i) 疾病予防
 - a. 内科嘱託医（なかじま診療所 中嶋医師）との連携
 - b. オーラルヘルスケアサービスによる口腔衛生指導（希望者のみ・毎週水曜日）
 - c. かしわせ歯科クリニックによる歯科治療（希望者のみ・毎週水曜日）
 - d. 看護処置
- ii) 精神科相談（毎月1回金曜日：啓友クリニック 西山医師）
- iii) 受診件数（上記精神科相談・オーラルヘルスケアサービスを含む）

受診科	件数	受診科	件数
内科	525	婦人科	1
外科	1	小児科	4
整形外科	38	精神科	360
脳神経外科	6	形成外科	0
眼科	7	てんかん発作外来	140
耳鼻科	4	歯科	472
皮膚科	30	入院	1
消化器科	0	救急	3

合計：1,592件

※上記入院期間及び入院先

期間	病院	診療科
2月13日 - 3月2日	松本病院	コロナ病棟

(3) 栄養管理

①給食会議

- i) 利用者に関する報告
- ii) 食事内容等に関する報告

②その他

- i) 偏食等の利用者個別配慮調整

(4) 避難訓練

- i) 豪雨、土砂災害を想定した垂直避難訓練実施 (9月17日)

4. 短期入所 (ぶれす・ぶれいす Be)

(1)ぶれす利用実績(延べ人数・カッコ()内は児童利用者数の内訳)

	短期入所	日中一時支援			
	宿泊	4時間未満	4-8時間	8時間以上	合計
4月	20(0)	71(0)	26(0)	12(0)	109(0)
5月	27(0)	65(0)	22(0)	11(0)	98(0)
6月	29(0)	96(0)	30(0)	10(0)	136(0)
7月	31(0)	77(0)	29(0)	9(0)	115(0)
8月	29(0)	69(0)	20(0)	3(0)	92(0)
9月	27(0)	63(0)	16(0)	7(0)	82(0)
10月	26(0)	85(0)	24(0)	4(0)	113(0)
11月	21(0)	98(0)	102(0)	5(0)	126(0)
12月	22(0)	91(0)	91(0)	3(0)	115(0)
1月	19(0)	81(0)	81(0)	4(0)	106(0)
2月	2(0)	37(0)	37(0)	1(0)	46(0)
3月	8(0)	21(0)	21(0)	5(0)	33(0)
合計	261(0)	858(0)	243(0)	74(0)	1171(0)

※ 4月23日-5月7日、2月16日-3月15日は、萩の杜内での新型コロナウイルス感染があり休所する。

(2)ぶれす送迎実績

月	回数	月	回数
4月	218回	10月	263回
5月	242回	11月	261回
6月	302回	12月	237回
7月	298回	1月	219回

8月	326回	2月	96回
9月	206回	3月	82回

合計：2750回

(5)ふれす・ふれいす Be 合同会議：毎月1回開催

①業務等に関する事項の共有、検討

②合同内部研修会の企画運営

日程	研修内容	講師
6月8日(火)	事例報告、検討	
9月14日(火)	事例検討、権利擁護虐待防止(支援の振り返り)	Eラーニング
2月8日(火)	中止	

※年3回開催予定であったが、コロナ禍で2回の実施となった

③ふれいす Be 利用実績

(延べ人数・カッコ内は重身利用者数、カッコ〈〉内は児童利用者数の内訳)

	短期入所	日中一時支援			
	宿泊	4時間未満	4-8時間	8時間以上	合計
4月	61 (2) 〈6〉	132	25	4	161 (52) 〈27〉
5月	63 (4) 〈6〉	129	21	4	154 (44) 〈34〉
6月	66 (4) 〈8〉	140	20	6	166 (50) 〈29〉
7月	67 (4) 〈6〉	123	21	5	149 (45) 〈27〉
8月	57 (5) 〈6〉	101	27	5	133 (41) 〈21〉
9月	60 (3) 〈4〉	128	21	5	154 (38) 〈29〉
10月	66 (4) 〈6〉	129	24	8	161 (45) 〈30〉
11月	60 (2) 〈6〉	135	20	4	149 (37) 〈23〉
12月	58 (1) 〈5〉	138	28	3	164 (42) 〈34〉
1月	58 (1) 〈8〉	114	17	4	135 (37) 〈〉
2月	56 (2) 〈7〉	100	20	2	122 (28) 〈〉
3月	60 (2) 〈6〉				155 () 〈〉
合計	732 (27) 〈33〉				1803 (222) 〈535〉

④ふれいす Be 送迎実績

月	回数	月	回数
4月	188	10月	210
5月	196	11月	200
6月	212	12月	209

7月	194	1月	181
8月	171	2月	163
9月	207	3月	

合計：2,062回

5. ジョブサイトひむろ

(1) 生活介護係

① ジョブサイトひむろ会議：毎月1回開催

- i) 利用者関係等、各グループ報告
- ii) 事故、ひやりはっと報告について
- iii) 事業計画、予算の進捗確認

② ジョブサイトひむろ支援員会議：不定期

- i) 事例検討
- ii) 建て替えグルーピング検討
- iii) アクションプラン検討

③ リスクマネジメント委員会：不定期

- i) ひやりはっと報告及び事故報告内容共有、意見交換
- ii) 再発防止策等の検討
- iii) 人権研修(虐待について)

③ 就労支援事業担当：不定期

- i) 新規受注作業の検討
- ii) 作業評価シート(賞与支給)の進捗確認
- iii) 工賃規程改定についての検討

物販

日程	イベント名
4月6日(火)	たかつき〇まるしえ
10月27日(水)	たかつき〇まるしえ
11月26日(金)	たかつき〇まるしえ
12月4日(土)	福祉展

④ レクリエーション・企画委員会：不定期

- i) レクリエーション企画の集約、調整
- ii) コロナ禍でのレクリエーションの実施方法検討
- iii) 事業所内イベント検討

作業グループ別レクリエーション

日程	行き先	人数	日程	行き先	人数
7月16日(金)	テイクアウト (ドルチェモス)	5	10月19日(火)	サンデーズベイク 569(安満遺)	5

	カート)			跡公園)	
7月28日(水)	買い物	2	10月21日(木)	ジョリーパスタ 高槻店	2
7月29日(火)	竜王山荘	6	11月19日(金)	勝尾寺	6
8月2日(月)	ヘミングウェイ、 舞州	5	11月22日(月)	くずはモール	5
8月3日(火)	テイクアウト (PUJA)	5	11月24日(水)	バスターボール 茨木店	2
8月10日(火)	テイクアウト (三田屋)	5	11月24日(水)	長岡天満宮/ くずはモール	4
8月12日(木)	テイクアウト (T's★Diner)	4	12月7日(火)	万博公園	13
8月18日(水)	テイクアウト (銀のさら)	5	12月15日(水)	ケンタッキー	6
8月25日(水)	長岡天満宮/ 水無瀬神宮	6	12月17日(金)	テイクアウト (カプリチョーザ)	5
9月9日(木)	テイクアウト (マクドナルド)	5	12月23日(木)	あべのハルカス	4
9月15日(水)	緑の文化園 (四条畷市)	6	1月11日(火)	テイクアウト (銀のさら等)	5
9月21日(火)	箕面の滝	5	1月19日(水)	テイクアウト (王将等)	3
9月29日(水)	山田池公園	6	1月28日(金)	テイクアウト (夢一喜)、調理	4
9月30日(木)	万博公園	5	2月3日(木)	五月山動物園	4
10月5日(火)	安満遺跡公園	5	2月9日(水)	テイクアウト (かつや)	5
10月7日(木)	長居植物園	5	2月10日(木)	神峯山寺	4
10月14日(木)	イオンタウン 太田	5	2月17日(木)	テイクアウト (お弁当、ケーキ)	5

3月4日(金)	テイクアウト (銀のさら 等)	5	3月15日(火)	伊丹スカイパー ク	4
3月10日(木)	テイクアウト (いろは)	6	3月25日(金)	ピソラ高槻大塚	2
3月11日(金)	テイクアウト (お弁当美 樹)	2	合計	39	181

事業所イベント

日程	内容	場所
10月29日(金)	ひむろ祭り	ジョブサイトひむろ
11月10日(水)	ランチフェスタ	ジョブサイトひむろ なさはら農園
11月15日(月) 11月29日(月)	ポールウォーキングハイキング	三好山
12月	一緒にアート展	ジョブサイトひむろ
12月24日(金)	クリスマス・忘年会	ジョブサイトひむろ
2月3日(木)	節分・豆まき	ジョブサイトひむろ

⑤その他

内部研修

日程	内容
5月17日(月)	てんかん講座(真野先生)
6月4日(金)	PECS基礎研修視聴会
6月10日(木)	PECS基礎研修視聴会
6月14日(月)	てんかん講座(真野先生)
6月21日(月)	PECS基礎研修視聴会
6月25日(金)	常勤勉強会(実践報告)
6月28日(月)	人権研修
6月30日(水)	ICF研修
7月9日(金)	人権研修
7月12日(月)	ICF研修
7月16日(金)	常勤勉強会(健康・二次予防について)
7月19日(月)	てんかん講座(真野先生)
9月24日(金)	常勤勉強会(個別支援計画について)
10月11日(月)	発達について(真野先生)
10月15日(金)	高齢化勉強会(のぞみの園古川氏)
11月8日(月)	発達について(真野先生)

11月19日(金)	eラーニング勉強会
11月22日(月)	eラーニング勉強会
11月26日(金)	PECS SV フィードバック報告会
12月4日(土)	救命救急講習
12月13日(月)	発達について(真野先生)
12月16日(木)	ハラスメント研修(大塚氏)
12月17日(金)	PECSSV フィードバック報告会
12月24日(金)	常勤勉強会(エコマップについて)
1月28日(金)	常勤勉強会(健康・二次予防について)
2月14日(月)	健診について(真野先生)
2月25日(金)	常勤勉強会
3月14日(月)	健診について(真野先生)

見学

日程	見学者	人数
9月30日(木)	茨木支援学校教諭	2名
10月21日(木)	相談支援あい・あい、保護者	2名
10月21日(木)	厚生労働省	2名
11月3日(水)	佛教大学	1名
11月24日(水)	ワークメイト西宮	2名

(2) 医務栄養

① 医務会議：毎月1回開催

- i) 健康、予防プログラムの進捗確認
- ii) リハ加算の進捗確認
- iii) 真野先生巡回相談：年間13回
 - a. 職員向け研修：年間7回
 - b. 内科健診
 - c. 新型コロナウイルス予防接種
 - d. インフルエンザ予防接種
 - e. リハビリテーション計画面談、更新
 - f. ご家族、職員の相談
- iv) 健診オプションについての検討、ご家族との共有
- v) 予防接種の際の医療同意の啓発
- vi) その他医療に関わる案件の検討

② 健康診断

i) 利用者健康診断

前期：5月29日(土) 9:00～11:00 (医療法人桜峰会 香川クリニック)

(内容) 身体測定、問診、血圧測定、胸部X線直接撮影、尿検査、血液検査

感染症、アレルギー検査、骨密度検査（希望者のみ）

後期：12月4日（土）9:00～11:00（医療法人桜峰会 香川クリニック）

（内容）身体測定、問診、血圧測定、インフルエンザ予防接種（希望者のみ）

ii) 職員健康診断

10月1日(金)～12月24日(金)（愛仁会総合保健センターにおいて実施）

③作業療法

i) 個別セラピー：33名 年間66回実施

ii) 体力測定：28名 年間1回実施

iii) リハビリテーション計画書作成、評価：20名

iv) ポールウォーキング

v) ひむろファーム活動

vi) ひむろボックスの実施

vii) 一緒にアート展の実施

viii) ICF研修会の実施

④栄養

i) 給食会議：毎月1回実施

a. ご利用者に関する報告

b. 食事のリクエスト

c. 特食（祝日、土曜）メニューの検討

ii) セレクト給食の実施（毎月1回）

iii) その他

a. 季節を感じられるメニュー、ご当地グルメを取り入れた。

b. 塩分量の減少に努めた。

c. グループホームのご利用者に対し、栄養摂取状況の改善を図った。

d. ご利用者の誕生日に、バースデーカードとデザートを給食に添えた。

e. 収穫祭の中止に伴い、杉の子農園の野菜を使用したお弁当によるランチフェスタを実施した。

⑤広報

i) 法人機関紙掲示板 年4回掲載の実施、すぎのこいいね年1回掲載の実施

ii) ジョブサイトひむろ広報誌 年4回発行の実施

a. 法人行事の掲載

b. ジョブサイト年間行事の掲載

c. 作業グループ別レクリエーションの掲載

d. 日中作業風景の掲載

6. ふれいす Be 通所部門

(1) 知的生活介護 I (AR4/7)

①12名のご利用者が通所されていたが、内1名のご利用者が、体調不良により2月末より

入院されている。3月より就Bのご利用者がAR7に異動となり、生活介護へと切り替わった。

- ②作業面では、個々の特性やペースなどを考慮しながら、軽作業やクリーニング作業を提供した。軽作業においては、安定した受注が難しく、独自にカフェのショップカードを作成とポスティングを行った。
- ③作業療法士と連携し、サーキットトレーニングの実施を継続した。
- ④新しい作業の一環として、中庭や玄関周辺に飾る寄せ植えを行った。
- ⑤土曜日プログラムや週1の余暇活動の時間を使って、余暇支援を行った。また、それらを通して、社会性の向上や自己決定の機会を多く持つ事ができた。
- ⑥新型コロナウイルス感染予防対策として、環境と整えると共に、ご利用者への衛生講習会を定期的実施し、新しいマナーの習得や、感染予防の意識を高めるよう支援を行った。

(2) 知的生活介護Ⅱ (AR1, 2, 8)

①AR1 / AR2

- i) コロナ禍の影響で、5月～6月下旬まで、7月中旬～9月末まで、12月下旬～3月下旬までAR2は1名の方が通所を自粛されるご利用者がいた。緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が解除されてからは通所を再開されている。
- ii) AR1は6月に新規で1名の方が入れ、9名のご利用者で開始する。
- iii) 平日や土曜プログラム時に、地域のスーパーや100円均一、地域のケーキ屋や弁当屋を利用して、日中活動や土曜プログラムに必要な材料、お茶や昼食のお弁当、デザートなどの買い出しを行うことで、地域資源を積極的に活用する事ができた。
- iv) プログラム提供においては、前年度から引き続きご家族からのニーズが高い、運動プログラムを中心に活動の組み立てを行った。2021度からは作業療法士の指導の下で様々な運動プログラムを組み合わせたサーキット運動やウォーキング用のポールを使用するのポールウォーキングなどに取り組んで、複数のご利用者に体を動かす機会を確保する事が出来た。今後も、AR1・2共に作業療法士と連携し、運動プログラムを充実させていきたいと考えている。また、2021年度からはBe敷地内の草木への水やりの実施を開始し、複数のご利用者にも杉の子農園以外でも植物の世話をする機会を設ける事が出来た。他には、古紙回収プロジェクトの立ち上げに伴い、牛乳パックの処理や地域のスーパーへの古紙の運搬作業などを複数のご利用者に取り組んで頂く事が出来た。
- v) PECSや写真/絵カードなどを用いて余暇活動の選択や作業終了時の報告、困っている事の援助要求など機会を設定し、意思表示の場面を増やした。

②AR8

- i) 7月より1名のご利用者が新規で通所開始。なかなか日課に乗れない等の問題はあったが、安定して通所していただくことができた。
- ii) 昨年の夏に1名がてんかん薬の調整の為、3か月ほど入院された。その際にスケジュールの作成や余暇活動の準備等を主導して行なう。入院期間にご家族と密に連絡を

取り、ご本人の状況把握に努めた。

- iii) ご利用者が2名、いずれも昨年末にグループホームやご自宅で粗暴行為が出たため、光愛病院に急遽入院されることがあった。両名とも関係者間で連絡を密にとり、退院時サマリーに参加する等、会議を重ねることでふれいす Be ヘスムーズに復帰していただけるように努めた。活動面や環境面を手直しすることで両名とも問題なく復帰され、現在では落ち着いてすごされている。
- iv) PECS を使用しているご利用者の支援を進めることで意思表示支援を進めることができた。

(3) 重身生活介護 (AR3)

①通所利用者

- i) 新規ご利用者の受け入れはなくご利用者22名でのスタートとなる。
- ii) 年度途中9月より新規ご利用者1名入られ23名となる。
- iii) 新型コロナウイルス感染予防や長期自宅療養の方もおられ、22名のご利用者うち通所人数が減少する事があったが、およそ1日7名~12名程のご利用者が安定して通所される。土曜開所も通常より少なく平均1名~4名程利用となった。

②職員体制

- i) 常勤支援員3名、常勤看護師1名がメインとなり生活介護、日中一時、短期入所での支援を行った。
- ii) 若手職員に日中活動の考案や日中一時、短期入所の担当を任せ、課題が出来た時には先輩職員よりサポートする事で最後までやり遂げる事が出来た。
- iii) スタッフ間のミーティングを月に2回設定し、常勤ミーティングとAR3ミーティングとしてご利用者の状況や支援内容を相談、共有をおこなった。

③医療的ケア

- i) 喀痰吸引2号を受けた職員が医療的ケアのご利用者の送迎に同乗し、支援の中でも喀痰吸引や経管栄養等、看護師のフォローが出来る様に体勢を整えた。
- ii) 喀痰吸引3号を受けた2名の職員が指導看護師の元、喀痰吸引の実地指導を受け、登録を行なった。
- iii) 胃ろう増設を検討されているご利用者のご家族の不安や課題を共有し、ご家族、病院、訪問看護等と連携を取り社会資源を図ると共に、安定した利用が出来る様に調整した。

④日中活動

- i) 活動の中で密にならない様に間隔を広げ環境調整を行い、内容を計画する際にも室内で密にならない様に工夫を行った。

⑤感染予防

- i) 一介助一手洗いやアルコール消毒、サーキュレータ等を活用し適宜換気を徹底し、ご利用者が安定して通所出来る環境を整えた。
- ii) 職員内で感染者が出来た時にはすぐに通所されているご利用者に連絡を取り、体調の確認を行うと共に情報を共有する事で感染が広がる事無く対応した。

(4) 就労継続支援B型 (AR5, 6, リネン)

①全体

- i) 引き続き、「働くこと」を支援の柱とし、ニーズに合った働く場の提供を模索した。
 - ii) 社会生活スキルの向上、社会人としての育ちを個々に応じて支援を展開していった。
 - iii) 特性や課題に合わせ、作業に取り組む目的を明確にし、より意欲的・前向きに取り決めるような支援に努めた。
 - iv) 作業を軸とし、社会生活面や行動面、感情面でのスキルアップ、さらに自己肯定感や仕事への誇りの獲得といった社会人としての基礎の形成につなげた。
 - v) 1名のご利用者が、ニーズや状態の変化に伴い、他ARへ異動となった。異動の際、担当者と密に情報の共有を図るなどして混乱少なく異動ができるように支援した。今後生活介護への契約変更を行なう。
- VI) 受注先と密な連絡を取ることで、新型コロナウイルスの影響で減少していた受注数もクリーニング、軽作業ともに、新型コロナウイルス蔓延前の受注数まで戻すことができた。
- VII) 工賃支払い額も、向上もしくは維持に向けて受注先を中心に働きかけた。結果、平均工賃 15,000 円を超えることができた。

②クリーニング作業

- i) 病院、認定こども園、キャンプ場、民泊など様々な場所のリネン類の洗濯業務を請け負い、数多くのアイテムを担うことで、より多くのご利用者が仕事に携わることができるようにした。
- ii) ご利用者個々が持つ強みを、普段の取り組みから評価し、受注先に新たな仕事の提案をするなど新しい仕事に繋げた。

③軽作業

- i) その時々で条件に合致したものを積極的に受注していき、工賃の向上に努めた。
- ii) 個々のニーズに合わせて、余暇支援を実施。作品を展示会に出展するまでに至ったご利用者もおられた。

(5) Café Be

①新型コロナウイルス感染症のため、以下の対応を継続し、感染症対策をとりながら短縮営業を行った。

- ・営業時間 : 12 時からの営業
- ・カフェコンサート : 中止
- ・大阪府感染防止認証ゴールドステッカーの取得と掲示

②コロナ禍でありながらも店舗運営継続と売り上げ向上をはかるために、取引業者との契約見直し、メニュー改善、SNS 活用による広報活動を行った。

③地域連携をはかるために、法人内農園産野菜や、地域住民の手作り雑貨等の販売を店頭で行った。

7. 地域生活支援部たかつき

1) レジデンスなさはら 2 丁目

①会議

- i) 個別支援ミーティング：毎週 1 回
 - ・ご利用者の特性や情報の共有と支援の統一
 - ・個別支援の進捗確認、検討
 - ・個別支援計画の策定会議
- ii) 夜勤者ミーティング会議：半年ごとに開催（年 2 回）
 - ・夜間支援員と日中支援員の情報交換
 - ・夜間対応の状況確認と検討
 - ・夜間の火災や災害想定をした場合の連絡体制等
- iii) とんだ世話人会議：2 か月に 1 回開催。
 - ・ご利用者の情報共有
 - ・世話人間の連絡調整
 - ・とんだ業務全般に関する検討、助言、調整

②保健衛生業務

- i) 体重測定（最低月 1 回）
- ii) 利用者健康診断
- iii) 内科健診（年 2 回）基本的に日中活動先で受診
- iv) 職員健康診断（年 1 回 夜勤者は年 2 回）
- v) 清掃週間
 - ・年間 3 回、集中的に清掃・環境整備に取り組む週間を設定

③保健看護業務

- i) 食事疾病予防
- ii) オーラルヘルスケアサービスによる口腔衛生指導
（希望者のみ・基本毎月 1～2 回）
- iii) 各医療機関への受診
 - ・令和 3 年度も年間 120 件以上の通院件数となっている。
（オーラルヘルスケアサービスを含むと約 300 件）
 - ・高齢化が進み、加齢によるてんかんを発症された方や、脳梗塞になられた方もおられ、高齢化に対応した支援が求められて来ている。

④コロナ対策

- i) ワクチン接種：利用者全員 3 回の接種（日中先と連携）
- ii) ご利用者の陽性者なく、職員の感染はあったが拡大せずに収束。

⑤避難訓練

- ・5 月、1 月に実施。

2) レジデンスなさはら

①会議

- i) 番館ミーティング：週 1 回

- ・ご利用者の共通認識
- ・個別支援の進捗確認、検討
- ii) 夜間ミーティング：随時
 - ・夜間対応の状況確認と検討
- iii) レジデンス会議（毎月第4火曜日）
 - ・日勤帯職員が参加し法人からの情報提供、共有。
 - ・予算、事業計画、アクションプランの進捗確認、検討

②保健衛生業務

- i) 体重、バイタル、SPO2の測定（毎日もしくは週1回）
- ii) 利用者健康診断
 - ・内科健診（年2回）基本的に日中活動先で受診
- iii) 職員健康診断（年1回 夜勤者は年2回）

③保健看護業務

- i) 往診の受診
- ii) オーラルヘルスケアサービスによる口腔衛生指導
（希望者のみ・おひとり基本毎月1～2回）
- iii) 各医療機関への受診
 - ・今年度も年間約200件を超える通院件数となっている。
 - ・コロナ禍ではあったが、代理受診よりも実際にご本人が受診できるように取り組みを行った。
 - ・高齢化の兆候がみられ、耳鼻科の通院が増えてくるなど、今後の高齢化の支援が求められる。

④コロナ対策

- i) ワクチン接種 ご利用者全員3回接種（日中先と連携）
- ii) コロナ感染、濃厚接触対策
 - ・2月にご利用者6名に陽性者発生。職員1名が感染。約2週間で収束。

⑤避難訓練

- ・9月、3月に実施。

3) レジデンスなさはらもとまち

①会議

- i) もとまちミーティング（毎週開催）
 - ・個別支援計画に基づく支援の遂行。支援の調整や対応の統一。進捗管理。
 - ・収支状況の把握、タイムリーな案件（コロナ等）についての共通認識と対応等々
 - ・「もとまち基本理念」の検討
 - ・事業計画、アクションプランの遂行
- ii) 夜勤者ミーティング（年4回開催）
 - ・個別支援の状況を夜間支援員と確認し、共通認識と対応の統一を図る
 - ・夜勤業務の役割分担と遂行

- ・夜勤者同士の情報交換

iii) サービス担当者会議

- ・生活環境が大きく変更になったことによる状態の確認と共有
- ・ご利用者によっては医師もご参加いただき薬の狙いや効果についての共有と今後の方針の確認
- ・ご本人に必要なサービスの調整と支給決定につなげる

②保健衛生・通院等

- i) 日常の健康管理、ご家族と連携による服薬管理。
- ii) 体重測定（最低月 1 回）
- iii) 利用者健康診断
 - ・内科健診（年 2 回）基本的に日中活動先で受診
- iv) 職員健康診断（年 1 回 夜勤者は年 2 回）
- v) 個別の通院同行（睡眠や食事等の課題のあるご利用者の共通認識と通院同行）

③コロナ対策

- i) ワクチン接種（ご利用者全員計 3 回接種）
- ii) 利用者の濃厚接触や職員の感染はあったが、拡大することなく収束。

④避難訓練

- ・9月、3月に実施。避難誘導訓練、消化訓練（シュミレーション）、通報訓練を実施。通報訓練のロールプレイを実施することで、様々な気づきがあり、マニュアルに落とし込む等につなげた。

8. 地域医療支援部

訪問看護事業開設 3 年目で基盤を固めた。職員数はほぼ変わらないが、訪問ルートの見直しや訪問のカバー体制を整備したこと、「あと一件」を意識したことにより、訪問看護利用料収入は、3,800 万円⇒5,100 万円と大幅に増加した。

9. アクトおおさか

(1) 大阪府発達障がい者支援センター運営事業

①発達障がい児（者）及びその家族等に対する相談支援と情報提供（家族等に対する家庭等での発達支援に関する相談支援と情報提供含む）

- ・個別支援：実支援人員 986 人、延支援件数 1,687 件
- ・個別支援のための調整会議：延実施回数 2 回、延参加機関数 3 機関

②発達障がい者及びその家族等に対する、就労に関して必要な相談等による支援
実施回数

- ・個別支援：実支援人員 102 人、延支援件数 374 件
- ・個別支援のための調整会議：延実施回数 2 回、延参加機関数 3 機関

③機関コンサルテーション

- ・相談支援に関する機関コンサルテーション：485 件
- ・就労支援に関する機関コンサルテーション：0 件

④関係施設及び関係機関等に対する普及啓発及び研修

- ・計 16 回、延参加者数 1,183 人

⑤連絡協議会及び調整会議の開催

- ・発達障がい者支援センター連絡協議会：延実施回数 2 回、延参加機関数 33 機関
- ・関係機関との調整会議：延実施回数 14 回、延参加機関数 140 機関

(2) 発達障がい者地域支援力向上事業

①市町村への直接支援（包括的な支援体制づくりへの助言）

a. 実施内容

アクトおおさかに配置している地域支援マネージャーが、市町村（自立支援協議会など）の会議と協働し、課題の整理や、事例検討を通じた支援体制についてのコンサルテーションを実施した。市町村の課題や現状に即したオーダーメイド型研修を実施し、発達障がい支援の核となる人材の育成や多分野での連携体制の構築等について助言を行った。

b. 実施市町村

- ・阪南市健康福祉部市民福祉課、こども未来部こども家庭課、相談支援まつのき園
- ・岬町しあわせ創造部福祉課、しあわせ創造部子育て支援課
- ・守口市健康福祉部障がい福祉課、こども部子育て支援政策課児童発達支援センターわかくさわかずぎ園
- ・岸和田市福祉部障害者支援課障害者基幹相談支援センター、委託相談支援事業所 4 か所
- ・高槻市健康福祉部福祉事業所福祉相談支援課（事業説明のみ）
- ・八尾市地域福祉部障がい福祉課基幹相談支援センター、健康福祉部障がい福祉課、こども若者部（事業説明のみ）

c. 事業活用・派遣調整件数（打合せ、研修、事務連絡等） 計 122 件

d. 延研修参加機関数、延参加者数

事業所種別	延参加機関数	延参加人数
基幹相談支援センター	2	2
相談支援	25	41
児童発達支援・放課後等デイサービス	41	64
児童発達支援センター	2	11
市町村（障害福祉担当課）	6	10
市町村（子育て担当課）	3	5

②府域全体への支援（好事例の発信）

令和 3 年度大阪府発達障がい児者支援施策に関する市町村説明会において、「令和 3 年度発達障がい者地域支援力向上事業の活用と取組み」として、阪南市健康福祉部市民福祉課の担当者より阪南市・岬町のモデル事例を発表できるよう調整を行った。

(3) ペアレント・メンター事業

①ペアレント・メンターの登録にかかる事務及び活用にかかる調整並びに大阪府メンター活動へのスーパーバイズ

- ・ペアレント・メンター派遣回数 14 件、 延参加者数 988 人
- ・派遣等にかかる調整件数 1,066 件

②ペアレント・メンターの養成研修及びペアレント・メンター交流会等の実施

- ・実施回数 計 3 回

③大阪府ペアレント・メンター事業運営委員会の実施

- ・実施回数 計 2 回

10. あんだんて

事業所名：生活支援センターあんだんて						
高槻市知的障害者生活支援事業（委託相談）						
実績	実人数	延べ人数	新規相談			
	154	5500	72			
評価						
<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業「障がい者単身生活支援事業」3 件実施（市内で初めて運用） ・ハードルの高い子育て支援に対するサービスの獲得、子育て支援事業（ホームサポート）も活用しつつ、自閉症の女性の方の子育てを支えるなど、地域での暮らしをサポート ・市内相談支援事業所連携会議 事務局として企画運営 ・自立支援協議会の参加（ケアマネ連絡会 課題分析チーム） 						
計画相談（指定特定相談支援）						
実績	契約者数	計画/モニタ				
	198	540				
評価						
<ul style="list-style-type: none"> ・主任相談支援専門員の配置（高槻市初）し、体制加算で基本報酬増額につないだ ・介護福祉ソフト「ブルーオーシャン」を導入した。費用については、障害福祉分野の ICT 導入モデル事業を取得することで大幅な負担軽減を図った ・業務の効率化、丁寧なモニタリングや計画の見直しによって前年比 3%増 						
その他（指定一般相談事業、障害程度区分調査など）						
<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化を図るため ICT 化を図った（グーグルドライブ、zoom の活用など） 						
地域との連携の取り組み						
<ul style="list-style-type: none"> ・ゆうちょ財団の金融教育事業に助成申請し wish と共催で支援者家族向け勉強会「金銭管理とお金のトラブル」の実施。（参加 35 件。オンラインと後日配信） ・市内相談支援事業所向け勉強会「加算の勉強会」を実施（10 事業所参加） ・就労・生活支援センターとの連携会議の実施 						

・高槻支援学校 福祉相談会への参加
評価 ・高槻市内の相談支援事業所と連携を図る他、支援力/連携力の向上、ピアサポート機能の充実に取り組んだ

11. wish

事業所名：こども相談支援センターwish				
高槻市知的障がい児相談支援事業（委託相談）				
実績	実人数	延べ人数	区分認定	福祉出張相談 (高槻支援学校)
	125	397	31	1回
評価 ・コロナ禍で相談の件数としては、昨年度より若干実人数は下がったが、延べ支援回数でいくと昨年度と変わらず。年齢層でみると45%が小学生、次に多いのは中学生の28%であった。不登校や学校に関する相談は年々増えている傾向にある。 ・相談年齢としては、昨年度同様、移行時期に対して不安を抱えている相談が多いことがわかる。また、関係機関からの相談も増えている。				
計画相談（障がい児相談）			計画相談（特定相談）	
実績	契約者数	計画/モニタリング	契約者数	計画/モニタリング
	89	202	4名	21
評価 ・人員削減があったが、計画相談の質を下げないようにチームで取り組んで実施した。 ・18歳卒業後の移行期のフォローとして、20歳まで特定相談を実施。学校卒業後、福祉事業所への移行をスムーズに行うことができ、また保護者の不安の軽減にも繋がった。特定相談でモニタリング回数を増やし、収入UPにも繋がった。				
地域との連携の取り組み				
	実施回数	内容		
自立支援協議会 ケアマネジメント連絡会	2回	・情報共有と地域課題の検討。 ・コロナで開催ができない時もあり。		
自立支援協議会 子どもワーキング	3回	・通学支援及び医療的ケア児の支援について検討。書面開催での開催もあり。		
高槻市障がい児相談支援事業所連絡会及び勉強会	基本毎月1回（4月は中止）	・行政（発達支援事業所）と市内の障がい児相談支援事業所と情報交換及び勉強会の実施。		

高槻市相談支援事業所 連絡会	毎月 1 回	市内の相談支援事業所同士の情報交換会。
<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会においてはコロナ禍の中、中々対面で集まることができず ZOOM 等を活用して横の繋がり場の場へ積極的に参加した。 ・研修を通して、市内の医療、教育、福祉の新たなネットワークにも参画することができた。 		

12. 人材育成研修室

事業所名：人材育成研修室			
事業：コンサルテーション事業			
内容	実施回数	主な派遣先	備考
訪問コンサル テーション	156 回	国立のぞみの園 来島会 五倫会 など 17 法人	兵庫県知的障害者施設協会におけるスーパーバイザー養成講座含む
学校コンサル テーション	6 回	高槻市教育センター	
講師派遣事業	10 回	鳥取県社会福祉士会 兵庫県知的障害者施設協会 豊中市立東豊中こども園 豊中市立東丘こども園	
<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園の生活支援課より依頼があり、最も行動障害の激しい利用者さんのいる特別支援課に対するコンサルテーションに携わることとなった。毎月 2 泊 3 日から 1 泊 2 日の行程で実施。導入時には、いわゆる標準的な支援を実施しようとしても導入が困難と考えていた支援員さんの意識がかなり変わってきた。 ・これまで、兵庫県知的障害者施設協会からの依頼で進めてきた、強度行動障害者支援スーパーバイザー養成講座において、第 1 期の 3 つの法人において支援がうまくいくことが増え、圏域の拠点になる下地ができた。年度末には、来年度から拠点が中心となって地域の社会福祉事業者のスーパーバイズができるよう、圏域の会員が集まって事例検討ができる体制ができあがった。最終 10 圏域に広げる予定。兵庫県がこれを事業化することが決定した。 ・コロナ感染症の学齢児への広がり、学校訪問が中止となり、講義形式の研修のみとなった。 ・感染症の広がり、訪問できない事業者も増えたものの、訪問とリモートを組み合わせ 			

てコンサルテーションを実施することにより、収入が前年度より 200 万円ほど上昇した。			
事業：令和 3 年度大阪府重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業			
内容	実地回数	主な派遣先	備考
訪問コンサルテーション	20 回	四幸舎和会 和光福社会 光輝会	
実地研修	2 回	レジデンスなさはらで職員 2 名を 3 日間受け入れ	
運営委員会	3 回		
<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から 3 ケ年の事業化される。新規 1 法人を加え、事業を実施している。 ・訪問コンサルテーションに加え、参加法人間の顔の見える関係性作りを目的とした「合同講座」や一年間の実践を振り返る「実践報告会」を開催した。 ・訪問コンサルテーション、実地研修は感染症の影響で実施できていない部分もあった。 			

13. 地域生活支援部よど

(1) ジョブサイトよど

①5 階

- ・ご利用者の個人エリアについて、老朽化している箇所の修繕や、より過ごし易い環境にする為に家具の配置やスケジュールボードの新調などフロア環境の物理的再構造化を行った。
- ・各ご利用者の支援手順書を導入し、フロア内で共通した支援ができる環境を整えた。
- ・新たな余暇活動として「お菓子作り」「お楽しみ調理」「タブレット」「パソコン」「野菜作り」「セレクトランチ」などを取り入れた。「バランスボール」「屈伸運動」「エアロバイク」「トランポリン」などの運動活動の充実も図った。
- ・三津屋北ホーム（GH）入居ご利用者が増えたことに伴い、三津屋北ホーム（GH）との情報共有会議の場を設定し、共通した支援の提供できる環境づくりを行った。
- ・4S の意識向上の為に、掃除の当番制やフロア月清掃目標を決め、計画的に 4S 確保を行った。

②4 階

- ・コロナ感染症に感染されたご利用者が 1 名おられたが、自宅療養の末無事復帰された。感染されたことは残念なことではあるが、感染症予防の意識がより一層高まる経験となった。施設の外での活動が制限されていた中で、少しでも楽しみのある、充実した生活を送っていただけるよう屋内で出来る余暇活動（セレクトランチや創作、調理）を提供した。
- ・緊急事態宣言などで過ごしの見通しが立ちにくい状況の中、「今」の時点で分かっていることだけでも明確にお伝えするなど、見通し不安の解消に力を入れた。（しかし不安が完全に解消されることはなく、不安なご様子が見られた。）

③3 階

- ・今年度は1名のご利用者が退所され、合計10名が利用された。また、その内1名は、新型コロナウイルス感染予防のため利用を自粛されていた。
- ・今年度もドリンクタイムやドライブという外出活動を取り入れた。その際、参加されるご利用者1人1人に行先や買いたいものを選んでいただく機会を設けるなど、ご本人の意思決定の場面を意識した。
- ・コロナ禍でも充実した生活が送れるよう、調理や創作活動、室内運動など、室内で出来る余暇活動を提供した。
- ・フロア内のレイアウトを変更し、ご利用者各々がより快適に過ごせる環境づくりを行った。
- ・年間を通しスタッフの入れ替えが激しかったが、ご本人への予告やスタッフ間の引継ぎを丁寧に行い、ご利用者の不安の軽減や支援の質の保持に努めた。

④2 階

- ・2名のご利用者に PECS を導入し、表出コミュニケーションの幅を広げる支援を実施した。
- ・緊急事態宣言中は、新型コロナウイルス感染防止のため数名のご利用者がご利用を自粛された。
- ・フロアの整理整頓を行い、日用品やご利用者の支援グッズを整理するとともに、物理的構造化を行い、誰が見てもどこに何があるかがわかりやすくなるよう工夫した。
- ・余暇活動及び健康維持の目的で、3名のご利用者にトランポリンとエアロバイクの活動を提供した。

⑤厨房

- ・手洗いの動画を導入し、より一層衛生面に気を付ける習慣を意識した。
- ・コロナ禍で外販などに参加できず、日中の外出機会も減ったため、バランスボール、エアロバイク、トランポリン等、運動不足解消の時間を設け、日中活動の過ごし方のバリエーションを意識的に増やした。
- ・たこあげ、フリスビー、バトミントン等、外に出て行う活動も導入した。
- ・厨房の活動をされるご利用者の人数はコロナ禍もあり減少したが、コロッケもつくねも継続して行えた。
- ・配達先の整理等、次年度に向け予め整理を行い、見通しをもって行えた。
- ・PECS を導入し、支援内容の充実を図った。
- ・杉の子会秋祭りのお弁当のために新メニュー「きんぴらコロッケ」を製造した。
- ・グループホームへの移行に向けて他事業所も交えたサービス担当者会議を開催するなど、他機関・他職種連携を意識して支援にあたった。
- ・新型コロナウイルスの影響で受注作業の量が大幅に減り、代替活動としてコロッケの材料の買い出しや運動などを行った。

(2) ジェイ・ブランチよど

①受注作業

- ・年度当初から職員が大幅に入れ替わり、経験不足や職員体制が厳しいことが課題となった。受注作業の簡素化や効率化が必至となり、「不定期の下請け受注作業」や「検品に時間と手間のかかる受注作業」については取引を中止した。
- ・その代わり、6月からダイレクトメールを発送する企業と契約し、ダイレクトメールの仕分け/封入/宛名貼りの作業を始めた。作業開始当初はミスが出ることもあったが、現在ではずいぶん慣れ、一度に荷受けする量も当初の500部から1500~2000部と、大幅に増えている。
- ・これまで受注作業の中心となっていた「絵の具のシール貼り/小箱入れ作業」については安定的に受注し、取り組むことができた
- ・このように「絵の具の作業」と「ダイレクトメールの作業」を二本柱として中心に据えた結果、「利用者が携わる作業が無い」という状態や、反対に「作業量が多すぎて納品に間に合わない」という状態は回避することができた。また、収入面でも安定した状態に持っていくことができた。なお寝具関連企業の受注作業も、数は少ないながら、継続して取り組むことができています。
- ・今年度も新型コロナウイルスの蔓延により、職員/利用者の休みが出ると、作業の分配や進め方について調整が必要になった。しかし全体的にみると、大きな影響はなかった。

②施設外就労

- ・「河端ビル」「堀内マンション」「濱崎鍼灸整骨院」の3件の清掃作業は、利用者の退所など、個別の事情により参加メンバーの変更はあったが、作業自体は安定して取り組むことができた。
- ・津田紙工での箱折作業は、緊急事態宣言を受けて8月から9月末までの約二か月間、作業が中止された。9月末に再開されると、繁忙状態が現在まで続いており、スキルの高い一部の利用者には参加する日数を増やしていただくことになった。
- ・津田紙工で支援を行う職員の体制はこれまで一名だったが、現場の繁忙さと職員の体面を考慮して12月より2名とし、そのぶん参加利用者数を増やした。その結果、箱の組み立て数はこれまでの1.5~2倍にまで伸びている。

(3) レジデンスよど三津屋北ホーム

①利用状況

- ・2021年4月に3階が開所し、全館開所となった。しかし、定員10名の内、1名のご利用者のグループホームの宿泊が難しく、ご家族や基幹相談支援センターの職員と毎月会議を実施し、移行支援を継続している。移行支援開始当初は月1~2回程の宿泊だったが、2022年3月時点で月3~4回程の利用になっている。
- ・支援員体制の兼ね合いもあり基本的に週末は帰省して頂くよう、ご家族に協力をお願いしていたが、支援員体制の安定とご家族のニーズもあり、月1回「週末宿泊可能日」を設定している。現在は4名の利用がある。日中活動先の土曜開所日と同じ週に設定し、土曜開所日の利用にも繋げている。

②開所後の取り組み

- ・ご利用者の誕生日には商店街のケーキ屋でケーキを買ったり、ご利用者から散髪の希望が挙がりグループホーム近くの散髪屋を利用したり、地域資源を活用している。
- ・2021年9月に1階開所1周年を迎え、ティータイムにかき氷作りを行った。かき氷作りをするかしないか、シロップの味などを視覚提示で選択して頂いた。

14. 就労支援部

(1) ジョブジョイントおおさか

- ・プログラムの内容、就職の実績

令和2年度より職業訓練の内容を「コース別プログラム」に改定。

令和3年度も以下の内容で継続実施した。

- ・就職実績

令和3年度は、十三から7名、高槻から9名の方が就職された。

1	(株) ナリコマフード
2	社会医療法人中央会
3	グローバルコミュニティ (株)
4	(株) ナニワやきいも本舗
5	積水ハウス (株)
6	(株) ベルシステム24
7	アデコ (株)

8	(株) ナニワやきいも本舗
9	(株) プラザオーサカ
10	(株) あきんどスシロー
11	セブンイレブン
12	NEOMAXエンジニアリング (株)
13	(株) 日米クック
14	(株) セリア
15	(株) チャーム・ケア・コーポレーション
16	(株) エヌ・ティ・ティ・ロジスコ

・働くチカラ PROJECT

令和3年度も株式会社エンカレッジと協働で事業運営。

発達障害やコミュニケーションが苦手な大学生への就活支援を提供。

参加学生は、就活のススメ 15名、就活のハジメ 13名・フォローアップコース 6名合計 34名の学生さんにご参加いただいた。

以下、プログラム内容である。

The posters provide detailed schedules for the '働くチカラ PROJECT' program. The top-left poster details a 'Lecture' program for 3rd and 4th year students, with sessions on topics like 'オリエンテーション・ビジネスマナー' and '先履の話 - ススメ・ハジメ合同企画 -'. The top-right poster details an 'Internship' program, listing dates for '夏コース' and '春コース'. The bottom-left poster details a 'Follow-up Course' for students who participated in the '2020年度 就活のススメ' program. The bottom-right poster details a 'Start of Job Search' program for all-year students, listing dates for various sessions like 'コミュニケーションゲーム' and '面接対策講座'.

・関西大学

令和3年度より関西大学キャリアセンターの学内プログラムを実施。

就活準備講座「ジョブチャレンジプログラム」と題して協働実施した。

1年間で7回の講座とインターンシップを開催し、以下がプログラム内容である。

日程	就職準備講座	インターンシップ
6月30日(水) 15:00~17:00	【第1回】 就職活動の進め方	◆インターンシップ参加希望調査 ※インターンシップは 定員5名程度とさせていただきます。
7月7日(水) 15:00~17:00	【第2回】 コミュニケーション講座	◆インターンシップガイダンス →職業準備度チェック、事前面談、 目標設定を行います。
8月	—	◆インターン先決定 ◆インターンシップ(5日間) ◆個別ふりかえり面談
9月	—	
10月13日(水) 15:00~17:00	【第3回】 自分にあった仕事を見つけよう	※インターンシップの日程や企業は、 ご本人の希望・お住まいの地域等を 考慮した上で決定いたします。
11月24日(水) 15:00~17:00	【第4回】 自己PR	◆インターンシップ報告会
12月8日(水) 15:00~17:00	【第5回】 先輩のハナシ	
2月16日(水) 15:00~17:00	【第6回】 企業研究講座	
3月9日(水) 15:00~17:00	【第7回】 面接対策講座	

・実践報告会

令和3年度もジョブジョイントおおさか実践報告会を開催。

コロナ禍の中であったが対面で開催し、定員80名に対して70名の参加があった。

以下、当日の開催内容である。

第1部 基調講演
「発達障がいの特性理解～就労支援に期待すること～」
(よこはま発達クリニック 佐々木康栄先生)

第2部 実践報告
①城野寝具(株)の就職事例(就職した濱田さん、城野社長)
②ANAウィングフェローズ・ヴィ王子(株)(就職した綿部さん)
③社会福祉法人枚方療育園(就職した鶴澤さん)

第3部 質疑応答

会場：
大阪市立青少年センター
KOKO PLAZA
エクスプレス・ココ
定員：80名(先着順)
参加費：無料

申し込み

以下のQRコード
または
リンク先から
お申し込みください

<https://forms.gle/5GJsfkiT7WHRLSNc7>



基調講演講師

佐々木康栄 氏
よこはま発達クリニック 心理士
公認心理師/臨床心理士/精神保健福祉士

福島大学大学院人間発達文化研究科・学校臨床心理専攻
修士課程終了。2011年4月より、横浜市内のグループ
ホームにて、成人の知的障害者、自閉症者の生活支援に
携わる。2013年4月より、よこはま発達クリニックに
勤務。同年より1年間、横浜市戸塚地域療育センターの
通園専属心理職を兼務。2015年10月より、よこはま発
達相談室にて個別療育指導、本人・保護者カウンセリング、
本人向けCBTプログラムなどに従事。学校支援の
他、訪問支援や、県内外複数の福祉施設にてコンサルテ
ーション業務を兼務している。



主催：社会福祉法人北摂杉の子会 ジョブジョイントおおさか

・障がい者雇用セミナー

令和2年度から開催している障がい者雇用セミナー。

令和3年度は、3回の連続講座をオンラインで開催した。

	日時	内容

1	7月28日(水)16:00~17:30	「発達障がいの特性」
	8月4日(水)16:00~17:30	「採用と定着支援」
2	11月11日(木)16:00~17:30	「発達障がいの特性+事例紹介」
	11月25日(木)16:00~17:30	「採用方法+事例紹介」
	12月2日(木)16:00~17:30	「定着支援+事例紹介」
3	3月16日(水)、16:00~17:30	発達障がいの特性

・就職した方の動画

令和2年度に引き続き、就職した方の動画を制作。

ジョブジョイントおおさかHPを運営管理する circos と協働で制作した。

動画は、ジョブジョイントおおさか公式 YouTube にて公開中。

https://www.youtube.com/watch?v=X_mXZ2QiWTE

・自閉症啓発デーの特別サイト

世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間に合わせて、ホームページでコラム配信。

コラム toiro で執筆する3名で分担して啓発活動をネット上で行なった。

4月2日	自閉症とは	https://jobjoint-osaka.com/2541/
4月3日	3つの特性	https://jobjoint-osaka.com/2559/
4月4日	感覚面の特性	https://jobjoint-osaka.com/2564/
4月5日	環境との相性	https://jobjoint-osaka.com/2614/
4月6日	強みと仕事	https://jobjoint-osaka.com/2633/
4月7日	好きなこと（こだわり）	https://jobjoint-osaka.com/2639/
4月8日	自閉症の文化	https://jobjoint-osaka.com/2643/

・発達障害白書 2022 への執筆

編集委員の方にお声がけをいただき、「発達障害白書 2022 年度」に執筆。

コロナ禍における雇用・福祉の現状や私たちの取り組みなど、2ページを担当。

「第9章労働」にある「II コロナ禍における発達障害者雇用の取り組み」にて掲載。

(2) LaLa-chocolat TAKATSUKI

・利用者の方の作業内容

①厨房：商品の袋詰めや計量作業、型抜き、シーラー、ラベル貼り等

②施設外就労：

・特別養護老人ホーム入所者の洋服たたみ/仕分け業務

・グループホームの清掃

(浴室掃除、フロア掃除機、モップがけ、窓ふき、トイレ・玄関掃除等)

③ステップ：一斗缶キャップの組立て、段ボールのパッケージング、ボトル組み立て、チラシ折り、チラシはさみ、ポスティング、ラベル貼り、封入等

・レクリエーション

新型コロナウイルスの影響もあり、外出プログラムは実施せず、所内の活動を実施。

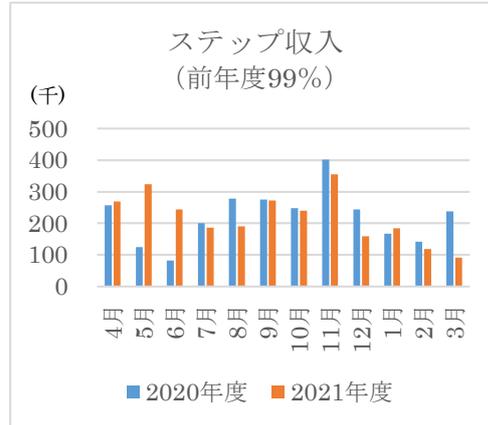
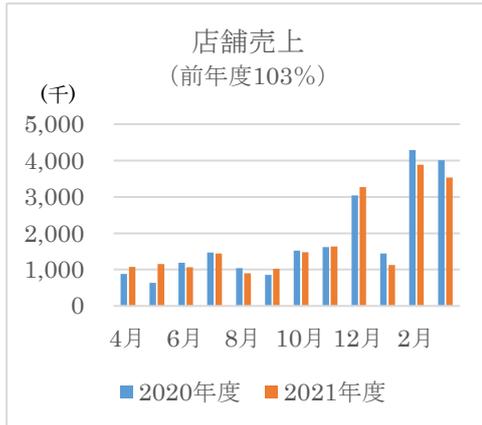
昨年度までよりも頻度増やし映画鑑賞、アート活動、エクササイズなどに取り組む。

- ・おつかれさま会

1年の慰労会として実施。飲食は無しとして、1年の振り返り動画の鑑賞やご利用者の出し物を実施した。

- ・年間の売上向上に向けての取り組み

3カ年の収支改善計画に基づき、店舗の売上アップとステップの収入向上を目標に取り組んだが、どちらも前年度比約100%で売り上げアップの目標を達成することはできなかった。引き続き、売上向上を目指し取り組んでいく。



1.5 児童発達支援部

【大阪地区】

【児童デイサービスセンターan】

①利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
大阪市	40	20
合計	40	20

②療育の利用率

	児童発達 (名)	放デイ (名)	全体 (名)
契約定員 (名)	40	20	60
年間延べ回数	800	400	1200
年間必要回数	上限 (一人: 20回)		
1日定員	上限 (1日 10名)		

③月別・事業別の利用率表

延べ実績 (利用率)	児童発達	放デイ	全体	療育回数
4月	0.98	1.00	0.98	59
5月	0.94	0.96	0.94	85
6月	0.99	1.00	0.99	113

7月	0.97	0.92	0.96	109
8月	0.95	1.00	0.97	93
9月	0.98	1.03	1.00	88
10月	1.09	0.79	0.97	109
11月	1.03	0.97	1.01	112
12月	0.97	1.13	1.02	110
1月	0.86	0.94	0.89	96
2月	0.94	1.03	0.97	98
3月	1.07	1.06	1.07	111
年間合計	11.77	11.83	11.77	1183
月別平均	0.98	0.99	0.98	99

④保護者研修

療育時に動画で提供 年 10 回

	参加予定	参加者	出席率	出席率 (%)
第1回	60	59	0.98	98
第2回	60	59	0.98	98
第3回	60	59	0.98	98
第4回	60	60	1.00	100
第5回	60	59	0.98	98
第6回	60	59	0.98	98
第7回	60	60	1.00	100
第8回	60	59	0.98	98
第9回	60	59	0.98	98
第10回	60	59	0.98	98

⑤保護者向け交流会

実施予定：就学に向けて1回、家庭での実践2回

実施：就学に向けて1回、家庭での実践2回

就学に向けて：11月9日（参加者4名）

家庭での実践：10月21日（参加者7名）、11月24日（参加者8名）

⑥淀川区発達障がい児等子育て支援事

実施予定：ピアカウンセリング40回、親子講座5回、一時保育10回

実施：ピアカウンセリング32回、親子講座5回、一時保育10回

ピアカウンセリング：5月～3月

親子講座：8月17日、10月26日、11月30日、12月27日、2022年1月11日に実施

【こども発達支援センターaz】

①利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
大阪市	35	20
合計	35	20

②療育の利用率

	児童発達 (名)	放デイ (名)	全体 (名)
契約定員 (名)	35	20	55
年間延べ回数	700	400	1100
年間必要回数	上限 (一人: 20回)		
1日定員	上限 (1日 10名)		

③月別・事業別の利用率表

延べ実績 (利用率)	児童発達	放デイ	全体	療育回数
4月	1.00	0.95	0.98	41
5月	0.93	0.84	0.90	80
6月	0.86	0.83	0.85	95
7月	1.05	0.83	0.96	97
8月	0.95	0.81	0.90	86
9月	1.06	0.83	0.73	74
10月	1.00	1.00	1.00	117
11月	1.06	1.09	1.07	108
12月	1.06	1.06	1.06	105
1月	0.94	0.70	0.86	79
2月	1.03	0.79	0.95	90
3月	1.06	1.04	1.05	80
年間合計	1.00	0.89	0.96	1052
月別平均	1.00	0.90	0.94	87.6

④保護者研修

療育時に動画で提供 年 10回

	参加予定	参加者	出席率	出席率 (%)
第1回	53	53	1.00	100
第2回	54	54	1.00	100
第3回	55	55	1.00	100
第4回	55	55	1.00	100

第5回	55	55	1.00	100
第6回	55	55	1.00	100
第7回	55	55	1.00	100
第8回	55	55	1.00	100
第9回	55	55	1.00	100
第10回	55	55	1.00	100

【発達支援あゆみ】

① 単独通所事業

【実績】

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約 児数	25	25	27	27	28	29	29	29	29	30	31	31	
療育 日数	19	18	22	20	21	20	21	20	20	19	18	22	240
延べ 利用 児数	342	250	426	422	305	427	478	442	408	326	325	351	4502
利用 率	69%	54%	72%	76%	50%	71%	76%	74%	68%	55%	58%	49%	64%

※4/1～2、12/29～1/3、3/31は閉所日。8月12日～18日（5日間）・12月24日～28日（3日間）・1月4日～5日（2日間）・3月24日～30日（4日間）は自由通所日（送迎バス運休）。

【保護者勉強会（全体）】

内容・講師	日時	参加者数
あゆみOBさんのお話会	9月6日（月）10:15～12:00	12
「自閉スペクトラムの理解と支援」 社会福祉法人北摂杉の子会 人材育成研修室 堀内 桂	12月1日（水）10:15～12:00	17

※両回とも内容を録画し、当日参加できなかった保護者の方にも後日視聴していただいた。

【保護者勉強会（年少児の保護者対象：ペアレント・トレーニング）】

- ・会場：発達支援あゆみ 2階 相談室1
- ・講師：社会福祉法人北摂杉の子会 人材育成研修室 谷岡 とし子

内容	グループ	日時	参加者数
オリエンテーション・自己紹介	りんご	7月2日（金）10:30～12:00	6
	めろん	7月9日（金）10:30～12:00	6

子どもの行動を観察して3つに分けよう	りんご	8月20日(金) 10:30~12:00	4
	めろん	8月27日(金) 10:30~12:00	2
子どもの行動のしくみを理解しよう	りんご	9月10日(金) 10:30~12:00	4
	めろん	9月17日(金) 10:30~12:00	3
楽しくほめよう ~環境調整と親子タイム~	りんご	10月15日(金) 10:30~12:00	2
	めろん	10月29日(金) 10:30~12:00	2
子どもが達成しやすい指示を出そう	りんご	11月2日(金) 10:30~12:00	5
	めろん	11月19日(金) 10:30~12:00	2
待ってからほめよう ~上手な注目の外し方~	りんご	12月3日(金) 10:30~12:00	6
	めろん	12月10日(金) 10:30~12:00	3

【保護者勉強会(年中・年長児の保護者対象)】

- ・会場：発達支援あゆみ 2階 相談室1
- ・講師：管理者 岩城 望

内容	日時	参加者数
オリエンテーション・家庭でのお悩み共有	6月23日(水) 10:30~12:00	6
進路について ~あゆみOBさんとの座談会~	7月7日(水) 10:30~12:00	6
成人期を見据えた支援 ~北摂杉の子会 松上理事長の話~	10月13日(水) 10:30~12:00	6
家庭でのお悩み共有	11月10日(水) 10:30~12:00	4
サポートブックについて	1月27日(木) 10:30~12:00	6

② 個別療育事業

【実績】

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約児数	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	29	28	-
延べ利用児数	19	39	46	46	35	39	45	44	43	42	33	43	474
保護者・関係機関との連絡調整	22	9	10	10	18	32	15	23	15	26	30	17	227
保護者・関係機関との面談	1	23	4	1	3	31	2	1	4	1	24	25	120

所属先訪問				2	2	1		3	3	3	3	2	19
-------	--	--	--	---	---	---	--	---	---	---	---	---	----

【所属園訪問】

12月8日	熊野田幼稚園
1月14日	原田こども園

【見学受け入れ】

7月29日	のばたけこども園	1名
8月20日	子育て支援センターほっぺ	1名
9月3日	庄内こどもの杜幼稚園	2名
10月1日	豊中市こども相談課	2名
10月15日	豊中市こども相談課	2名
2月21日	東豊中幼稚園	2名
3月15日	サルビアジュニア	1名

【保護者研修】

1	DVD 自閉症とともに～自閉症の人を理解する～
2	DVD 自閉症とともに～自閉症の人を支援する～
3	自閉スペクトラム症の特性の理解～社会性・コミュニケーション・想像すること～
4	自閉スペクトラム症の特性の理解～感覚面の特徴～
5	子どもにわかりやすく伝えるには～特性に合わせた工夫～
6	人との関りやコミュニケーション
7	評価について～子どもの“芽生え”を見つけよう～
8	困った行動の原因を考えてみよう

③ 障害児一時預かり事業

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用児数	9	13	18	22	24	22	24	29	26	25	19	33	264

本年度新規契約児数・・・・・・・・・・20件

④ 豊中市子育て発達支援プログラム実施支援業務

1. 子育て発達支援プログラム「基礎編」(ペアレント・プログラム)

① プログラム

回	日程	内容	職員	
第1回	6月23日	現状把握を書く！自分のことについて書いてみよう	谷岡・水口	グループワークフォロー
第2回	7月7日	行動で書く！	谷岡・水口	
第3回	7月21日	同じカテゴリーを見つける	水口	

第4回	9月1日	ギリギリセーフを見つける	谷岡・水口
第5回	9月15日	ペアプロで見つけたことを確認する	谷岡・水口

時間：9：45～11：30

場所：豊中市立児童発達支援センター

日程	時間	場所	職員	内容
5月13日(水)	13：00～13：15	電話	水口	打ち合わせ日程調整
5月26日(火)	10：00～11：00	あゆみ	谷岡・水口	プログラムの目的、内容、受講者選定、今後の進め方の打ち合わせ
5月27日(水)	16：00～16：30	メール 電話	水口	事前面談票フォームの確認
6月3日(水)	10：00～10：10	電話	水口	打ち合わせ日程調整
6月16日(火)	14：00～15：00	あゆみ	谷岡・水口	受講者の情報共有、1回目の打ち合わせ
7月14日(火)	10：00～11：00	あゆみ	谷岡・水口	事後振り返りと次回の打ち合わせ
8月25日(火)	17：00～17：10	電話	水口	打ち合わせ日程調整
8月27日(木)	14：30～14：50	電話	水口	プログラム内容について
8月28日(金)	14：00～14：10	電話	水口	打ち合わせ日程調整
9月1日(火)	12：00～13：00	つぼみ	谷岡・水口	事後振り返りと次回の打ち合わせ
9月14日(月)	17：00～17：10	電話	水口	プログラムについて
9月15日(火)	12：00～13：00	つぼみ	谷岡・水口	事後振り返りと次回の打ち合わせ プログラムの振り返り

② 打ち合わせ・振り返り・連絡調整等

2. 子育て発達支援プログラム「ステップアップ編」(ペアレント・トレーニング)

① プログラム

回	日程	内容	職員	
第1回	10月6日(火)	行動を見る	谷岡・水口	サブ講師 ・グループ ワーク担当 ・参加者フ ォロー
第2回	10月20日(火)	ほめることを習慣にしよう	谷岡・水口	
第3回	11月10日(火)	子どもの行動への良い注目を しよう	谷岡・水口	
第4回	11月24日(火)	親子タイムと指示の出し方	谷岡・水口	
第5回	12月8日(火)	ほめるための準備をしよう	谷岡・水口	
第6回	12月22日(火)	まとめ	谷岡・水口	

時間：10：30～12：00

場所：豊中市立児童発達支援センター

② 打ち合わせ・振り返り・連絡調整等

日程	時間	場所	職員	内容
8月12日(水)	14:00~14:10	電話	水口	プログラム日程連絡
8月19日(水)	11:00~11:20	メール	水口	プログラム構成の情報提供
9月16日(水)	9:30~9:45	電話	水口	受講者について
9月24日(水)	17:00~17:20	電話	水口	プログラム内容について
9月30日(水)	13:30~13:45	電話	水口	受講者について
10月2日(金)	13:30~13:45	電話	水口	プログラム内容について
10月6日(火)	12:15~13:15	つぼみ	谷岡・水口	事後振り返りと次回の打ち合わせ
10月20日(火)	12:15~13:15	つぼみ	谷岡・水口	事後振り返りと次回の打ち合わせ
11月5日(木)	9:00~9:15	電話	水口	プログラム内容について
11月5日(木)	9:30~10:00	電話	谷岡	プログラム内容について
11月10日(火)	12:15~13:15	つぼみ	谷岡・水口	事後振り返りと次回の打ち合わせ
11月24日(火)	12:15~13:15	つぼみ	谷岡・水口	事後振り返りと次回の打ち合わせ
11月26日(木)	15:00~15:10	電話	水口	プログラム日程について
12月4日(金)	16:00~16:10	電話	水口	プログラム内容について
12月8日(火)	12:15~13:15	つぼみ	谷岡・水口	事後振り返りと次回の打ち合わせ
12月21日(月)	12:00~12:15	電話	水口	プログラム内容について
12月22日(火)	12:15~13:15	つぼみ	谷岡・水口	事後振り返りと次回の打ち合わせ
2月4日(火)	15:30~16:30	あゆみ	谷岡・水口	事業全体の振り返り 次年度について
2月24日(水)	15:00~15:15	電話	水口	振り返り

【高槻地区】

【こども発達支援センターwill】

① 利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
高槻市	24	16
茨木市	1	6
摂津市	3	0
島本町	3	4

合計	31	26
----	----	----

②療育の利用率

【契約内容】

	児童発達 (名)	放デイ (名)	全体 (名)
契約定員 (名)	31	26	57
年間延べ回数	620	520	1140
年間必要回数	上限 (一人: 20回)		
1日定員	上限 (1日 10~12名)		

③【月別・事業別の利用率表】

延べ実績 (利用率)	児童発達	放デイ	全体
4月	0.96	1.00	0.98
5月	0.92	0.93	0.92
6月	0.98	1.00	0.99
7月	0.93	0.85	0.90
8月	0.95	0.89	0.92
9月	0.88	0.86	0.87
10月	0.92	0.85	0.88
11月	0.98	0.90	0.95
12月	0.89	0.84	0.87
1月	0.89	0.76	0.83
2月	0.88	0.87	0.88
3月	0.98	0.86	0.92
年間合計	11.16	10.61	10.91
月別平均	0.93	0.88	0.91

④保護者研修

■日時：月2回、全10回、令和3年5月から令和4年3月まで実施

■会場：高槻現代劇場もしくはウェブ受講

【保護者研修利用率】

コロナに伴い、正確な利用率は不明。

保護者研修申し込み者は33名。

実践研修申し込み者は11名。

(2) 大阪府通所支援事業者育成事業 (大阪府委託事業)

(1) 機関支援【実数】 12事業所 6学校

【延べ数】 68事業所 6学校

(2) 圏域交流会 (事業所対象) 1回実施

内容、実施場所、参加事業所数など

日時	場所	内容	参加事業所数	参加学校数	参加人数
令和4年2月24日(木)～令和4年3月3日(木)	オンライン	実践報告会	15		不明

(3) 情報交換会（学校対象） 1回実施

内容、実施場所、参加学校数など

日時	場所	内容	参加事業所数	参加学校数	参加人数
令和4年1月5日(水)～1月10日(月)	オンライン	大阪府発達支援拠点 障がい児通所支援事業者等育成事業についての情報交換会 (三島、北河内圏域対象)		6	不明

(4) 上記以外の研修等（あれば） 回実施

内容、実施場所、参加事業所・学校数など

日時	場所	内容
令和3年9月29日	オンライン	圏域内市教委向け事業説明会
令和4年2月4日	オンライン	高槻市 支援コーディネーター研修会 事業説明

その他、各市教育委員会への訪問

市町村	日時	目的
高槻市	2021年11月17日(火) 10:00～11:00	事業説明と市の現状把握と次年度に向けた連携の方向性検討
	2022年1月25日10:00～11:00	支援コーディネーター研修打ち合わせ
	2022年3月10日(木)15:00～16:00	次年度に向けた打ち合わせ
茨木市	2021年11月30日(火) 10:00～11:00	事業説明と市の現状把握と次年度に向けた連携の方向性検討
摂津市	2021年10月25日(月) 10:00～11:00	事業説明と市の現状把握と次年度に向けた連携の方向性検討
	2022年2月14日(月)10:00～11:00 (オンライン)	次年度に向けた打ち合わせ
島本町	2021年11月12日(金) 13:00～14:00	事業説明と市の現状把握と次年度に向けた連携の方向性検討
	2022年3月9日(水)14:00～15:00	次年度に向けた打ち合わせ

【自閉症療育センタ Link】

①利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
枚方市	14	24
寝屋川市	1	0
四條畷市	5	0
交野市	3	6
大東市	1	0
合計	23	29

②療育の利用率

【契約内容】

	児童発達 (名)	放デイ (名)	全体 (名)
契約定員 (名)	23	29	52
年間延べ回数	460	580	1040
年間必要回数	上限 (一人 : 20 回)		
1 日定員	上限 (1 日 10~12 名)		

③【月別・事業別の利用率表】

延べ実績 (利用率)	児童発達	放デイ	全体
4 月	1.00	0.7	0.98
5 月	0.92	0.90	0.91
6 月	0.93	0.93	0.93
7 月	0.97	0.95	0.96
8 月	0.81	0.89	0.86
9 月	0.82	0.94	0.89
10 月	0.97	0.92	0.94
11 月	0.89	0.96	0.93
12 月	0.89	0.96	0.93
1 月	0.79	0.76	0.77
2 月	0.79	0.91	0.86
3 月	0.86	0.94	0.91
年間合計	10.65	11.02	10.86
月別平均	89%	92%	90%

④保護者研修

■日 時 : 月 1 回、全 10 回、令和 3 年 5 月から令和 4 年 3 月まで実施

■会 場：枚方市民会館・ウェブ受講

【保護者研修利用率】

コロナに伴い、正確な利用率は不明。

保護者研修申し込み者は 23 名。

実践研修申し込み者は 19 名。

(2) 大阪府通所支援事業者育成事業（大阪府委託事業）

①機関支援 機実数 18 事業所

延べ数 170 事業所

○内 訳

	訪問支援	来訪支援	実習受入	見学受入
実事業所数	16	18		1
延べ事業所数	88	20		3

②圏域交流会

事業所向け交流会 5 回実施

内容、実施場所、参加事業所数など

	日時	場所	内容	参加事業所数	参加人数
1	令和 3 年 6 月 3 日(木) 14:00~16:00	Link 相 談室 2 室	北河内圏域内各市の児童発達支援センターと公立の児童発達支援事業所を対象に情報交換と交流	会場 4 オンラ イン 4	会場 6 オンラ イン 8
2	令和 3 年 6 月 24 日(木) 9:45~11:15	枚方市 市民会館 第 6 集 会室	北河内圏域内すべての障がい児通所支援事業所を対象に情報交換交流 ①Link より『発達支援拠点』について説明 ②少人数グループで情報交換	17	17
3	令和 3 年 11 月 18 日(木) 14:00~16:00	枚方市 市民会館 第 4 会 議室	北河内圏域内各市の児童発達支援センターと公立の児童発達支援事業所を対象に情報交換と交流 ①発達支援拠点(Link)と公立小中学校との連携について ~事業の進捗状況の報告、今後(次年度以降)に向けて、質疑応答 等~ ②情報交換:○人材育成について ○	5	9

			園内研修について○専門職の人材確保について（方法・工夫等）		
4	令和3年12月16日(木) 10:00~11:30	Link 相談室	北河内圏域内すべての障がい児通所支援事業所を対象にオンライン(zoom)で情報交換と交流	22	28
5	令和3年2月24日(木) ~3月3日(木)	動画配信	北河内圏域内すべての障がい児通所支援事業所を対象に、動画配信による実践報告会~機関支援を通じた支援の工夫~	26	(視聴回数 約 150 回)

Ⅲ. 資料編

1. 利用者の概要

(1) 萩の杜

①年齢別・性別人員構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	0	0	3	21	14	0	38
女	0	0	0	7	4	0	11
合計	0	0	3	28	18	0	49

②障がい支援区分

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	42	7	1	0	0	0	0

③療育手帳等取得状況

障害程度	療育手帳				身体障害者手帳						
	A	B1	B2	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
人数	48	2	0	50	4	2	1	1	1	2	11

(2) ジョブサイトひむろ

①年齢別・性別人員構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	0	14	7	12	2	2	37
女	0	3	7	6	1	0	17
合計	0	17	14	18	3	2	54

②障がい支援区分

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	29	20	5	0	0	0	0

③療育手帳等取得状況

	療育手帳			身体障害者手帳						
障害程度	A	B	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
人数	52	2	54	3	2	0	0	2	0	7

(3) ふれいすBe

①年齢別・性別人員構成

【生活介護】

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	14	22	2	1	1	40
女	12	7	0	0	0	19
合計	36	29	2	1	1	59

【就労継続支援B型】

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	8	9	1	0	0	18
女	4	6	0	0	0	10
合計	12	15	1	0	0	28

②障害支援区分

【生活介護】

区分	6	5	4	3
人数	31	18	8	2

【就労継続支援B型】

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	0	2	9	9	2	0	6

③療育手帳等取得状況

	療育手帳				身体障害者手帳						
障害程度	A	B1	B2	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
人数	64	15	3	82	21	5	0	0	0	0	26

(4) 地域生活支援部たかつき

【レジデンスなさはら2丁目・グループホームとんだ】

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0	0	3	9	3	1	(男性12名・女性4名)

②障がい支援区分（共同生活援助）

区分	6	5	4	3	2	1	非該当
人数	2	8	5	1	0	0	0

【レジデンスなさはら】

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	合計
0	0	6	12	2	(男性13名・女性7名)

②障がい支援区分（共同生活援助）

区分	6	5	4	3	2	1	非該当
人数	18	2	0	0	0	0	0

【レジデンスなさはらもとまち】

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0	10	4	0	0	0	(男性14名)

②障がい支援区分（共同生活援助）

区分	6	5	4	3	2	1	非該当
人数	9	5	0	0	0	0	0

(5) 地域生活支援部よど

①年齢別・性別人員構成

事業所	性別	20代	30代	40代	50代	合計
ジョブサイトよど	男性	8	17	3	0	28
	女性	2	4	0	0	6
ジェイ・ブランチャよど	男性	7	5	3	0	15
	女性	3	1	0	2	6

②障害支援区分

	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	区分なし
ジョブサイトよど	14	11	6	3	0	0	0
ジェイ・ブランチャよど	0	0	4	3	2	2	10

③療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳			
	A	B	合計	1級	2級	3級	合計
ジョブサイトよど	24	7	31	1	2	0	3
ジェイ・ブランチャよど	1	14	15	0	5	1	6

(6) 就労支援部

【ジョブジョイントおおさか】

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	合計
0	19	3	4	(男性 16名・女性 10名)

②療育手帳等取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳			未取得
障害程度	A	B	計	2級	3級	計	申請中
合計	0	11	11	10	7	17	1

【ジョブジョイントおおさか たかつきブランチ】

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	合計
5	28	5	1	(男性 31名・女性 8名)

②療育手帳等取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳			未取得
障害程度	A	B	計	2級	3級	計	申請中
合計	0	18	18	9	14	23	2

【LaLa-chocolat TAKATSUKI】

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	合計
0	15	6	4	27 (男性 15名・女性 12名)

②療育手帳等取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳			未取得
障害程度	A	B	計	2級	3級	計	申請中
合計	11	15	26	0	1	1	0

2. 職員配置

(1) 法人本部 (法人事業部)

	基準職員数	実配置職員数
正職		6.0
嘱託		3.0
パートタイマー		3.0
計		12.0

(2) 萩の杜

	基準職員数	実配置職員数
正職		19.0
嘱託		6.0
パートタイマー		24.7

計		49.7
---	--	------

(3) ジョブサイトひむろ

	基準職員数	実配置職員数
正職		14.0
嘱託		3.0
パートタイマー		14.2
計	29.5	31.2

(4) グループホームとんだ・レジデンスなさはら2丁目

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.3
嘱託		1.0
パートタイマー		5.9
計	10.4	11.2

(5) レジデンスなさはら

	基準職員数	実配置職員数
正職		9.3
嘱託		4.0
パートタイマー		8.0
計	16.6	21.3

(6) レジデンスなさはらもとまち

	基準職員数	実配置職員数
正職		9.3
嘱託		0
パートタイマー		5.1
計	11.8	13.4

(7) ふれいす Be 通所部門

	基準職員数	実配置職員数
正職		14.8
嘱託		3.8
パートタイマー		22.3

計	26.2	40.9
---	------	------

(8) ぶれいす Be 短期入所

	基準職員数	実配置職員数
正職		1.0
嘱託		1.0
パートタイマー		2.9
計	2	4.9

(9) あんだんて

	基準職員数	実配置職員数
正職		3
嘱託		0.0
パートタイマー		0.5
計		3.5

(10) すぎのこ訪問看護ステーション

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.8
嘱託		0.0
パートタイマー		4.6
計	2.5 以上※	8.4

※保健師、看護師または准看護師

(11) アクトおおさか

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.8
嘱託		1.4
パートタイマー		1.0
計		6.2

(12) ジョブサイトよど

	基準職員数	実配置職員数
正職		9.0
嘱託		2.1
パートタイマー		8.6

計	15.6	19.7
---	------	------

(13) ジェイ・ブランチよど

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.7
嘱託		1.0
パートタイマー		3.2
計	3.5	7.9

(14) レジデンスよど 三津屋北ホーム

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.0
嘱託		2.0
パートタイマー		3.6
計		9.6

(15) ジョブジョイントおおさか

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0
嘱託		1.0
パートタイマー		3.5
計	4.9	7.5

(16) ジョブジョイントおおさか たかつきブランチ

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0
嘱託		4.0
パートタイマー		4.0
計	6.6	11.0

(17) LaLa-chocolat TAKATSUKI

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.0
嘱託		1.0
パートタイマー		4.2

計	3.4	9.2
---	-----	-----

(18) こども発達支援センターwill

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0
嘱託		0.8
パートタイマー		1.5
計	3.0	5.3

(19) こども発達支援センターLink

	基準職員数	実配置職員数
正職		2.0
嘱託		0
パートタイマー		2.1
計	3.0	4.1

(20) 児童デイサービスセンターan・PASSO

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0
嘱託		0
パートタイマー		1.2
計	3.0	4.2

(21) こども相談支援センターaz

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0
嘱託		0
パートタイマー		0
計	3.0	3.0

(22) こども相談支援センターwish

	基準職員数	実配置職員数
正職		1
嘱託		0.0
パートタイマー		1
計		2.0

(23) 発達支援あゆみ

	基準職員数	実配置職員数
正職		11.8
嘱託		4.0
パートタイマー		3.6
計		19.4

3. 採用状況

令和3年4月1日	萩の杜	会田 新之介
令和3年4月1日	レジデンスなさはら2丁目	石田 茉優
令和3年4月1日	レジデンスなさはらもとまち	伊藤 文弥
令和3年4月1日	アクトおおさか	大江 利浩
令和3年4月1日	レジデンスなさはらもとまち	大西 香菜子
令和3年4月1日	萩の杜	川村 萌華
令和3年4月1日	レジデンスよど	木下 菜菜子
令和3年4月1日	レジデンスなさはら2丁目	塩見 さゆき
令和3年4月1日	レジデンスなさはら	豊野 元輝
令和3年4月1日	発達支援あゆみ	茶山 瀬里子
令和3年4月1日	たかつきランチ	新井田 卓子
令和3年4月1日	ジョブサイトよど	西澤 美咲
令和3年4月1日	ジョブサイトひむろ	若林 愛弓
令和3年4月1日	ジョブサイトひむろ	山之内 優子
令和3年4月1日	法人事業部	山村 初音
令和3年4月1日	レジデンスなさはら	小久保 杏耶

4. 退職

令和3年4月21日	レジデンスなさはら2丁目	小沢 有咲
令和3年5月20日	萩の杜	小寺 妃夏麗
令和3年5月31日	ジェイ・ランチよど	高木 由香利
令和3年6月30日	レジデンスなさはら	武田 詩歩
令和3年7月20日	萩の杜	札幌 愛実
令和3年7月31日	ジェイ・ランチよど	池田 綾佳
令和4年3月17日	萩の杜	本多 康人
令和4年3月31日	人材育成研修室	山根 和史
令和4年3月31日	az	市原 来美
令和4年3月31日	Link	中川 朱夏
令和4年3月31日	az	八木 真紗子
令和4年3月31日	発達支援あゆみ	横野 綾

令和4年3月31日	レジデンスなさはらもとまち	柴田 健太
令和4年3月31日	発達支援あゆみ	吉田 麻衣
令和4年3月31日	発達支援あゆみ	茶山 瀬里子

5. 正職員の主な資格取得状況

資格の名称	人数
社会福祉士	63
介護福祉士	33
保育士	26
精神保健福祉士	13
公認心理師	11
臨床発達心理士	4
臨床心理士	5
准看護師	1
看護師	4
作業療法士	4
管理栄養士	2
日商簿記3級	3
クリーニング師	1

6. 実習受け入れ状況

実習校名	施設名	人数	期間
武庫川女子大学大学院	たかつきブランチ	1	4～9月（週1回）
大阪人間科学大学	ジョブサイトひむろ	1	6月7日～6月22日
立命館大学（インターン）	萩の杜	1	6月14日
京都文教大学（インターン）	萩の杜	1	6月18日
大阪市立大学（インターン）	萩の杜	1	6月21日
関西福祉科学大学（インターン）	萩の杜	1	6月28日
京都女子大学	レジデンスなさはら	2	7月19日～8月30日
龍谷短期大学	萩の杜	2	7月26日～31日
大阪市立大学	地域生活支援部よど	1	8月2日～9月9日
帝塚山学院大学	ふれいす Be	1	8月3日
京都ノートルダム女子大学	ジョブサイトひむろ	1	8月10日～9月17日
京都府立大学	will・wish	1	8月17日～9月27日
大阪市立大学	地域生活支援部よど	1	9月13日～29日
京都医療福祉専門学校	ジョブサイトひむろ	2	9月20日～9月29日

京都女子大学	ふれいす Be	1	9月22日
知的障害者福祉協会	地域生活支援部よど	1	10月4日～5日
大阪保育専門学校	萩の杜	2	10月4日～16日
大阪保育専門学校	ふれいす Be	1	10月4日-18日
国立のぞみの園	ジョブサイトひむろ	3	10月11日～11月18日
龍谷短期大学	萩の杜	2	10月18日～31日
大阪樟蔭女子大学	will	8	10月19日
国立のぞみの園	レジデンスなさはら	3	10月11日～10月19日 10月25日～10月29日 11月15日～11月19日
関西学院大学大学院	発達支援あゆみ	2	10～2月（週1回）
大阪人間科学大学	ジョブサイトひむろ	1	11月1日～11月17日
日本メディカル福祉専門学校	ふれいす Be	2	11月15日-29日 12月6日-17日
隆光学園	レジデンスなさはら等	5	11月30日～12月20日 (のべ9日間)
龍谷短期大学	萩の杜	2	12月16日～24日
光華女子大学	ふれいす Be	1	1月18日
京都女子大学	レジデンスなさはら	2	2月1日～2月20日
京都女子大学	アクトおおさか	2	2月9日
大阪府立大学	ふれいす Be	1	2月28日

7. 職員研修・研究会

開催月	研修会・研究会の名称
4	世界自閉症啓発デー in OSAKA 2021
	大阪地区・あゆみ合同内部研修
	基礎講座①特性理解
	新入職員サービスマナー研修
	甲種防火管理者講習
5	メンター研修
	相談支援従事者研修「地域移行・地域定着支援コース」
	ストレスマネジメント研修
	基礎講座②評価について
	基礎講座③構造化
	OJT リーダー養成
	初級サービスマナー研修
法人内研修 PECS 基礎研修	

	Vineland-II 適応行動尺度の研修会
	たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワークの研修会
	全国就労移行支援事業所連絡協議会 総会+課題供給カンファレンス
	トラブルシューター研修会
6	相談支援従事者研修「地域移行・地域定着支援コース」
	相談支援従事者現任研修
	サービス管理責任者等指導者養成研修
	PECS レベル1 ワークショップ
	PECS 研修
	基礎講座④コミュニケーション
	基礎講座⑤問題行動の理解と対応
	発達障害者支援センター全国連絡協議会 総会・実務者研修会
	発達障害者支援センター職員研修会
	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員研修
	中級サービスマナー研修
	クローズアップセミナー（キャリアカウンセリング協会）
	自閉スペクトラム症の診断・評価アセスメント：ADOS-2, ADI-R 超入門講座
	たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワークの研修会
7	相談支援従事者現任研修
	PECS レベル1 ワークショップ
	自閉症支援講座 みらくるトレーニング
	法人内研修 TTAP 研修会
	ポッチャ指導者養成研修
	認知行動療法セミナー ワークショップ I（動機づけ面接）
	講演会（就職した先輩）@豊中市立文化芸術センター
	たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワークの研修会
	ダウン症研修
	ファシリテーション研修
	てんかん研修
	ストレスケア研修
8	相談支援従事者現任研修
	大阪府発達障がい児支援のための保育士・幼稚園教諭研修
	施設職員の心のケアを考える
	労働セミナー
	障がい等福祉従事者研修（世話人研修会）
	障がい児者施設課程研修
	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 管理職員

	精神障害者の地域での生活
	社会福祉士会実習指導者講習会
	大阪知的障害者福祉協会 2021 年度新任職員（3 年未満）Web 研修
	就労支援フォーラム NIPPON2021 MINI FORUM②
	ストレスチェック実施者研修
	日本職業リハビリテーション学会愛知大会
	日本自閉症スペクトラム学会
	たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワークの研修会
9	相談支援従事者現任研修
	強度行動障害支援者養成研修 基礎研修
	令和 3 年度大阪府相談支援従事者初任者研修（2 日過程）
	医療的ケア児等支援者養成研修
	鳴門教育大学発達臨床センター開設記念シンポジウム「発達障がいといじめ」
	新版 K 式発達検査講習会
	大阪地区合同ケース会議
	新型コロナウイルス対策オンライン研修&相談会
	感染症対策研修
	リハビリカレッジ認定ライブセミナー
	中国・四国ブロック合同企画研修会「発達障害者の高齢期支援」
	たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワークの研修会
	ふらっふへ実習
10	相談支援従事者主任研修
	相談支援従事者初任者研修
	強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修）
	自閉症の方の医療的ケアについて
	サービス管理責任者等養成研修（基礎研修）
	個人情報保護応用編
	アンガーマネジメント研修
	令和 3 年度全国知的障害関係施設長等会議
	知的障害者の高齢化について
	メンター研修
	アクトおおさか 内部研修「学校との連携～協力関係を築くために～」
	エンカレッジ就労支援セミナー
	たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワークの研修会
11	相談支援従事者主任研修 多様な価値観をもつ保護者との関わり方
	サービス管理責任者等養成研修（基礎研修）
	サービス管理責任者等養成研修（更新研修）

	lon1 ミーティングについて
	リスクマネジメント研修
	大阪府重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業合同講座
	ぜんち共済設立 15 周年記念セミナー
	関東ブロック合同企画研修会「発達障害のある子どもと家族への支援」
	ローラ・クリンガー博士講演会
	あいすくりーむの家視察
	研修（就労支援におけるアセスメントの実施方法）
	たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワークの研修会
12	相談支援従事者主任研修
	相談支援従事者現任研修
	サービス管理責任者等基礎研修
	大阪地区合同ケース会議（12 月はあゆみも合同で実施）
	金子総合研究所 1 周年記念セミナー「発達支援の質的向上」
	大阪府障がい者虐待防止・権利擁護研修
	iPECS 研修
	強度行動障がい支援者養成研修（実践研修）
	5 法人ジョイントセミナー
	「性」についての研修会
	PECS 研修
	大阪府世話人研修
	JDD ネット
	就労支援セミナーNIPPON2021
	発達障害者支援センター全国連絡協議会 近畿ブロック総会・研修会
	アクトおおさか 内部研修「大阪府障がい者相談支援アドバイザー派遣事業について」
	令和 3 年度 発達障害者地域支援マネージャー全国会議
	たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワークの研修会
1	相談支援従事者現任研修 働く ADHD ママ～経理をやってみた～
	知的障害援助専門員養成研修（スクーリング）
	第 58 回全国知的障害者関係職員研究大会（京都大会）
	令和 3 年度 発達障害教育実践セミナー
	Vineland- II 研修@Web
	JDD ネット冬期セミナー
	OJT 研修
	たかつき・しまもと障がい者就労支援ネットワークの研修会
2	精神科領域におけるトラウマインフォームドケアの考え方を学ぶ

	三島医療圏発達障がいネットワーク研修会
	発達障害支援者向けセミナー 発達障害のある子とその家族を支援するプログラム～ペアレント・トレーニングの地域普及をめざして～
	サービス管理責任者等養成研修(更新研修)
	リスクセミナー
	レクリエーション研修
	ファシリテーション研修
	臨床実習指導者講習会
3	相談支援従事者現任研修
	たかつき福祉基礎講座
	リーダー養成研修
	トーキングマット研修
	サービス管理責任者実践研修
	就労支援の研修会「CEF2020」

令和3年度参加研修会（研究会）数：135